

Nikon Nikon Nikon Nikon
Nikon Nikon Ni Nikon
Nikon Nikon Nikon Nikon
Nikon Nikon Nikon Nikon
Nikon Nikon Nikon Nikon

Nikon

F60D

PANORAMA

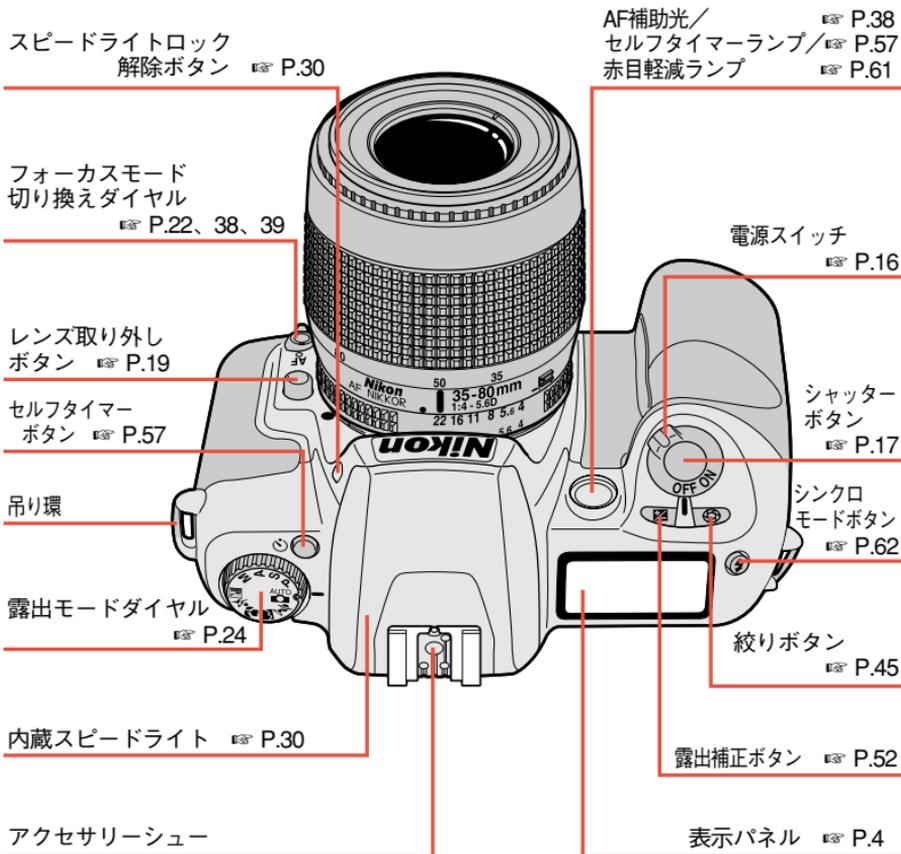
すぐに撮影したい方は、P.15~P.31の
「撮影の基本ステップ」をご覧ください。

使用説明書

Nikon Nikon Nikon Nikon
Nikon Nikon Nikon Niko...
Nikon Nikon Nikon Nikon

J

各部の名称



CE “CEマーキング” について

CEはヨーロッパ協定 (Conformité Européenne) の意味で、マーキングはその製品が適応されるEC規定をすべて満たしていることを表しています。

視度調節レバー ⓘ P.58

AEロックボタン ⓘ P.51

ファインダー接眼窓

コマンドダイヤル

接眼目当て ⓘ P.58

クォーツ
デート ⓘ P.54

フィルム
確認窓 ⓘ P.21

パノラマ
切り換えレバー ⓘ P.53

裏ぶたロック解除
レバー ⓘ P.20

電池ぶた
開閉ノブ ⓘ P.16

途中巻き戻しボタン ⓘ P.36

三脚ねじ穴

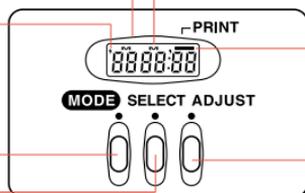
■クォーツデートの各部の名称と主なはたらき

M：この表示の下に月が

、この表示の後に年が
表示されます。

MODE（モード）ボタン
写し込むデータ、修正する
データを選びます。

SELECT（セレクト）ボタン



データ表示窓

表示されます。

—：写し込みが行われると
約2秒間点滅します。

ADJUST
（アジャスト）ボタン

表示パネル／ファインダー内表示について

■表示パネル

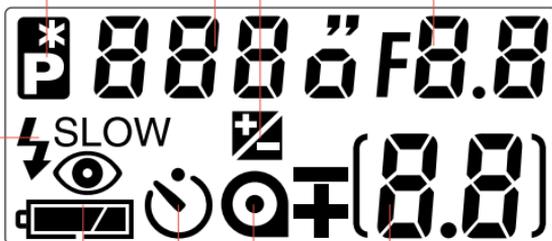
シャッタースピード表示

露出補正マーク ⓘ P.52

プログラムシフト
マーク ⓘ P.42

絞り値表示

シンクロ
モード表示
ⓘ P.61



バッテリーチェック
表示 ⓘ P.17

フィルムカウンター／露出
補正量表示 ⓘ P.21/52

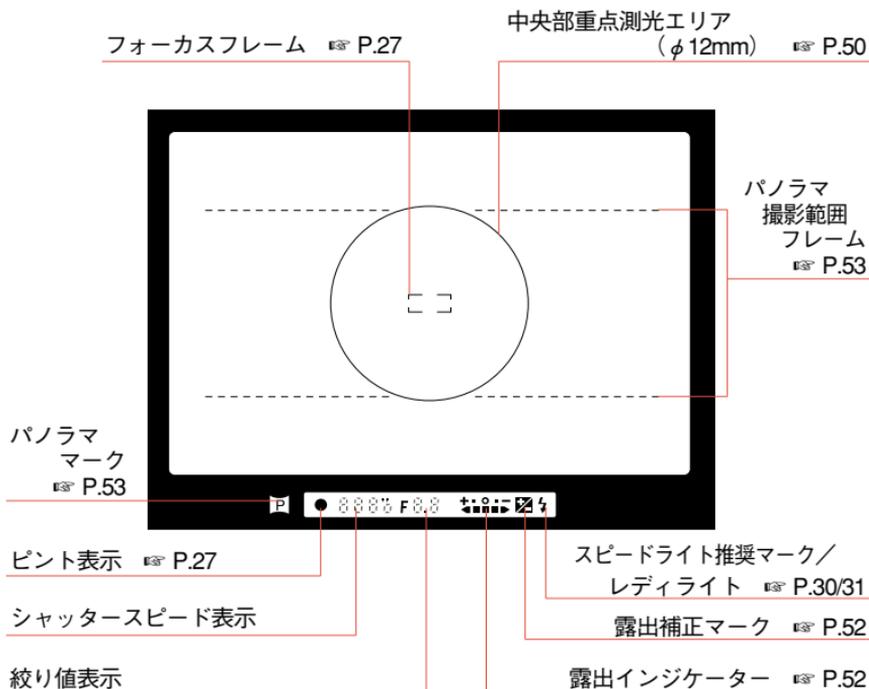
セルフタイマーマーク ⓘ P.57

フィルム在中マーク ⓘ P.21

注意 表示パネルとファインダー内表示の液晶について

表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなることがあります。また、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

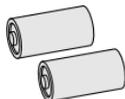
■ファインダー内表示



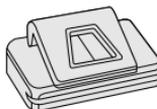
付属品



ボディキャップ
 P.19



リチウム電池2本
CR123Aタイプ P.16



アイピースキャップ
DK-5 P.58



ストラップ

(ボディ外箱に取り付け方が
記載されています)

はじめに

■このたびはニコンF60Dをお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

このカメラには、次のような特長があります。

- ・初心者の方でも簡単に撮影が楽しめる、スピードライト内蔵一眼レフカメラです。
- ・10種類の露出モードがダイヤルに絵表示されていますので、希望する露出モードのセットが容易で、多彩な撮影が簡単に楽しめます。
- ・オートAFサーボ (AF-A) 機能により、被写体が静止しているか移動しているか、および移動の方向をカメラが判断し、状況に合わせてシングルAFサーボ (AF-S) かコンティニュアスAFサーボ (AF-C) のどちらかをカメラが自動的に選択します。

安全上のご注意と表示について

製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。

表示と意味は次のようになっています (詳細はP.12~14をご覧ください)。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は、注意 (警告を含む) を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容 (左図の場合は感電注意) が描かれています。



⊘記号は、禁止 (してはいけないこと) の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) が描かれています。



●記号は、行為を強制すること (必ずすること) を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容 (左図の場合は電池を取り出す) が描かれています。

ご確認ください

■保証書とご愛用者カードについて

この製品には保証書とご愛用者カードが添付されていますのでご確認ください。

- ・保証書の詳細につきましては、P.71の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。
- ・ご愛用者カードをご記入の上ご返送くださいますと、カメラの基礎知識、撮影方法、撮影の楽しさなどを紹介しました写真を撮るための手引書、または著名な写真家による、ニコン機材で撮影した写真集のうち、ご希望のいずれか一冊をお届けいたします。詳細はご愛用者カードをご覧ください。

■使用説明書の再発行は当社サービス機関へ

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、裏面の当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有料）。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

- ・本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用及び利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■定期的に点検サービスを受けてください

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします。

- ・特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
- ・点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライト等も併せて点検依頼されることをおすすめします。

■本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のレンズおよびスピードライトなどのアクセサリに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

- ・他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

目次

この使用説明書は、「**撮影の基本ステップ**」を中心に構成されています。

「**撮影の基本ステップ**」は電池、レンズ、フィルム、ピント、露出、撮影と基本的な撮影手順を説明しており、すぐにカメラをご使用になりたい方や一眼レフカメラを初めてお使いになる方でも、ここを順にお読みいただければ、簡単に撮影が行えるようになっていきます。

「**操作の詳細**」では、レンズから露出まで、「**撮影の基本ステップ**」とほぼ同じ順番で各機能をより詳しく説明しています。簡単な撮影方法をマスターした後、各機能の詳細へとステップアップすれば、高度なテクニックを必要とする撮影も行えます。

「**スピードライト撮影**」では、内蔵スピードライトによる撮影方法および別売りスピードライトについて説明しています。暗い所ではもちろん、明るい所でも自由自在にスピードライトを活用した撮影が行えます。

使用説明書の全体的な構成は、P.10～11をご覧ください。それでは、この使用説明書をよくお読みいただき、F60Dの機能を活用して撮影をお楽しみください。

撮影前に P.2～14

各部の名称	P.2～3
表示パネル/ファインダー内表示について	P.4～5
はじめに	P.6
ご確認ください	P.7
使用説明書の構成	P.10～11
警告/注意	P.12～14

撮影の基本ステップ P.15～32

1.カメラに電池を入れ、電池の容量を確認します。	P.16～17
2.カメラにレンズを取り付け、絞リングを最小絞りにセットします。	P.18～19
3.フィルムを入れましょう。	P.20～21
4.フォーカスモード切り換えダイヤルをAFにセットします。	P.22～23
5.露出モードダイヤルを☺にセットします。	P.24～25
6.カメラを構え、ピントを合わせます。	P.26～27
7.ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。	P.28～29
8.内蔵スピードライトを使ってみましょう。	P.30～31
コラム：ピントと露出の豆知識	P.32

操作の詳細 P.33～66

このカメラに使用可能なレンズについて	P.34～35
フィルムについて	P.36～37
フォーカスモードについて	P.38～39
フォーカスロック撮影	P.40
各露出モードによる撮影	P.41～46
AUTO	P.41
マルチプログラムオート	P.42
シャッター優先オート	P.43
絞り優先オート	P.44
マニュアル	P.45～46
イメージプログラムによる撮影	P.47～49
測光モードについて	P.50
AEロック撮影	P.51
露出補正	P.52
パノラマ撮影	P.53
日付と時刻の合わせ方、写し込みについて	P.54～56
セルフタイマー撮影	P.57
視度調節機能/アイピースキャップについて	P.58
インスタントリセット/レリーズソケットについて	P.59
スピードライト撮影	P.60～65
内蔵スピードライトとTTL-BL調光について	P.60
調光範囲（光の届く範囲）について	P.60
シンクロモードの種類と特長	P.61
内蔵スピードライトの撮影方法	P.62～63
内蔵スピードライトに使用可能なレンズについて	P.63
使用可能な別売りスピードライトについて	P.64～65
各モードの組み合わせについて	P.66

資料編 P.67～79

別売りアクセサリーについて	P.68
カメラの取り扱いと電池の取り扱いについて	P.69～70
アフターサービスと保証について	P.71
故障かな?と思ったら（修理を依頼される前に）	P.72～73
仕様	P.74～77
索引	P.78～79

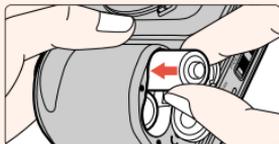
使用説明書の構成

撮影の基本ステップ

P.15~31

- 1** カメラに電池を入れ、
電池の容量を確認します。

P.16~17

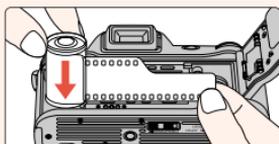


- 2** カメラにレンズを取り付け、
絞りリングを最小絞りにセットします。 P.18~19



- 3** フィルムを入れましょう。

P.20~21



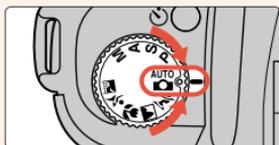
- 4** フォーカスモード切り換えダイヤルを
AFにセットします。

P.22~23



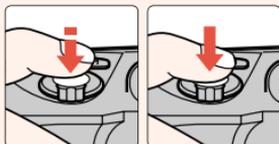
- 5** 露出モードダイヤルを
AUTOにセットします。

P.24~25



- 6** カメラを構え、
ピントを合わせます。

P.26~27

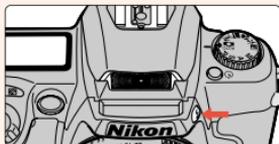


- 7** ファインダー内表示を確認し、
シャッターをきります。

P.28~29

- 8** 内蔵スピードライトを
使ってみましょう。

P.30~31



カメラの取り扱いと電池の取り扱いについて (P.69)

このカメラに使用可能なレンズについて (P.34) ・CPU内蔵ニッコール (P.34) / CPU内蔵ニッコール以外のレンズ (P.34)

フィルムについて (P.36) ・フィルム感度の確認方法 (P.36) / フィルムの途中巻き戻し (P.36) / フィルムの巻き戻しが行われない場合 (P.37) / フィルム給送モード (P.37)

フォーカスモードについて (P.38) ・AF (オートフォーカス) (P.38) / AF補助光 (P.38) / M (マニュアルフォーカス) (P.39)
フォーカスロック撮影 (P.40)

各露出モードによる撮影 (P.41) ・: AUTO (オート) (P.41) / P: マルチプログラムオート (P.42) / S: シャッター優先オート (P.43) / A: 絞り優先オート (P.44) / M: マニュアル (P.45) イメージプログラムによる撮影 (P.47) ・: ポートレート / : 風景 / : クローズアップ / : スポーツ / : 夜景 測光モードについて (P.50) ・マルチパターン測光 / 中央部重点測光 AEロック撮影 (P.51) 露出補正 (P.52)

パノラマ撮影 (P.53) ・日付と時刻の合わせ方、写し込み (P.54)
セルフタイマー撮影 (P.57) 視度調節機能 / アイピースキャップについて (P.58)
インスタントリセット / リリーズソケットについて (P.59)

スピードライト撮影 (P.60) ・内蔵スピードライトとTTL-BL調光 (P.60) / 調光範囲 (P.60) / シンクロモードの種類と特長 (P.61) / 撮影方法 (P.62) / 使用可能なレンズ (P.63) / 使用可能な別売りスピードライト (P.64)

警告



分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガをすることがあります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをすることがあります。

電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。



すぐに修理依頼を



電池を取る

発熱、発煙、焦げ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。

電池を取り出す際、火傷に充分注意すること。電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。



分解禁止



水かけ禁止

水につけたり水をかけたりしないこと

発火したり感電することがあります。



使用禁止

可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないこと

爆発、火災の原因になることがあります。



見ないこと

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害になることがあります。

警告



禁止

ストラップが首に巻き付かないようにすること 特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと
首に巻き付いて窒息することがあります。

注意



発光禁止

目の近くでスピードライトを発光しないこと
一時的な視力障害になることがあります。



感電注意

ぬれた手で操作しないこと
感電の原因となります。



放置禁止

製品および付属品は、幼児の手の届かない所に保管すること
ケガをしたり付属品や電池を飲み込む恐れがあります。



保管注意

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること
太陽光がレンズに入射し、発火の原因となります。



移動禁止

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと
転倒したりぶついたりしてケガの原因となります。

⚠ 注 意



禁 止

電池を火に入れたり、ショート、分解、加熱をしないこと
破裂、発火の原因となります。



使用注意

電池に表示された警告・注意を守ること

破裂、発火の原因となります。



使用注意

使用説明書に表示された電池を使用すること

発熱、発火の原因となります。



禁 止

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池を
まぜて使わないこと

破裂、発火の原因となります。

撮影の基本ステップ

AUTOモードによる
簡単な撮影方法を説明しています。

ここでは、もっとも簡単な撮影方法として下表の装着レンズ、カメラ各部の設定を前提としています。一般的な撮影は、AUTOモードでほとんど行えます。

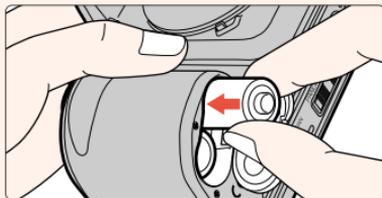
装着レンズ		DタイプAFレンズ
フォーカスモード		オートフォーカス
露出モード		 オートモード
測光モード		3D-6分割マルチパターン測光
内蔵スピードライト		ノーマルシンクロ*

*露出モードをAUTOモードにセットすると、自動的にセットされます。

カメラに電池を入れ、電池の容量を確認します。

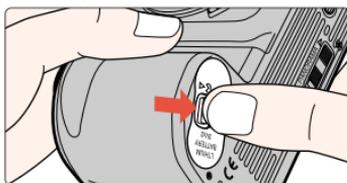
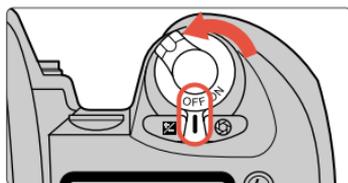
1

このカメラには、リチウム電池 (CR123Aタイプ) を2本使用します (他の電源は使用できません)。



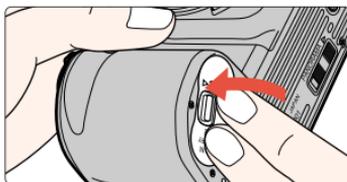
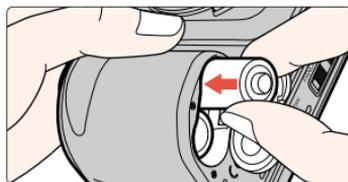
1.1

電源スイッチをOFFにし、電池ぶた開閉ノブをスライドさせて、電池ぶたを開けます。



1.2

電池ぶたの⊕⊖表示にしたがって電池を入れ、電池ぶたを確実に閉じます。

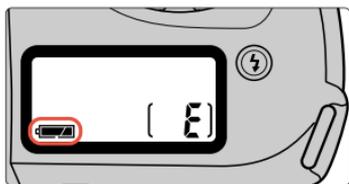
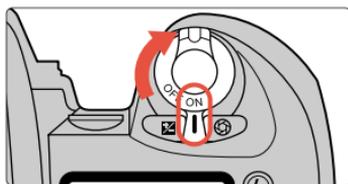


・⊕⊖を間違えますと、故障の原因となる場合があります。

☑ここをチェックしましょう。

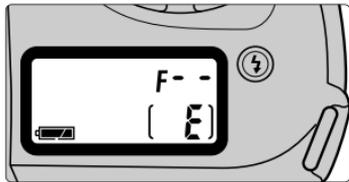
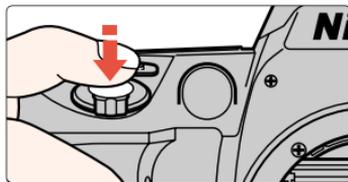
- 電池は幼児の手の届かないところに置き、万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください（P.70「電池の取り扱いについて」をご覧ください）。
- 電池を交換するときは電源スイッチをOFFにして、2本とも同じメーカーの新品電池に交換してください。
- 海外等へお出かけの際は、予備の電池をお持ちください。

1.3 電源スイッチをONにして、バッテリーチェック表示で電池容量を確認します。



- （点灯）：電池の容量は充分です。
 - （点灯）：電池容量はわずかです。予備の電池を準備してください。
 - （点滅）：電池を交換してください（ファインダー内表示は消灯し、シャッターはきれなくなります）。
- ・電源スイッチをONにして約5秒経過すると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値、ファインダー内の表示が消灯します。

1.4 シャッターボタンの半押し操作と、半押しタイマーについて

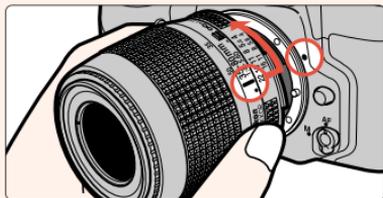


- ・シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、半押しタイマーが作動して、表示パネルのシャッタースピードと絞り値、ファインダー内の表示が再点灯します。指を離してから約5秒経過すると、これらの表示は再度自動的に消灯します。

カメラにレンズを取り付け、絞りリングを最小絞りにセットします。

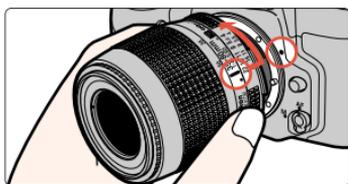
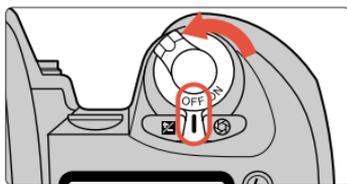
2

電源スイッチをOFFにし、レンズを取り付けます。絞りリングは常に最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットしたままにします。



2.1

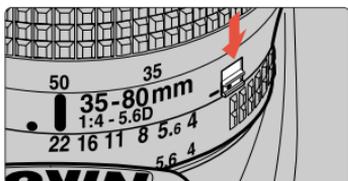
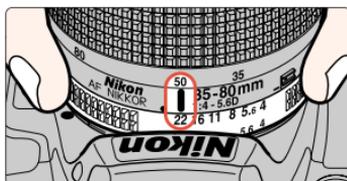
電源スイッチをOFFにし、カメラにレンズを取り付けます。



- ・カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまで回します（レンズ取り外しボタンは押さないでください）。
- ・レンズが装着されていないときや、CPU内蔵ニッコール以外のレンズ（※P.34）を装着したときは、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示にF-が点滅して警告し、シャッターがきれません（露出モードがマニュアル時はF-が点灯して、シャッターがきれます※P.46）。

2.2

絞りリングを最小絞りにセットして、ロックします。



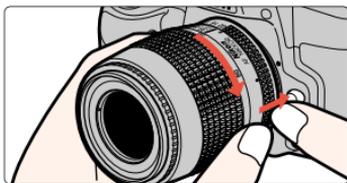
- ・最小絞りにセットされていないときは、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示にFEEが点滅し、シャッターがきれません。

☑ここをチェックしましょう。

- できるだけ、DタイプAFニッコールをご使用ください。このカメラの機能をフルに利用できます (P.34「このカメラに使用可能なレンズについて」をご覧ください)。
- レンズが不用意に作動しないよう、レンズの取り付け、取り外しの時はカメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズ装着時は、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- レンズの着脱は、直射日光を避けて行ってください。

23

カメラからレンズを取り外すには

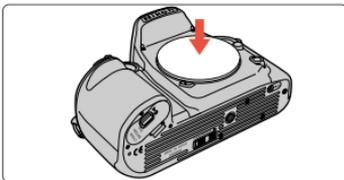


- レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回して外します。



要点 カメラからレンズを長時間外しておくときは

カメラからレンズを長時間外しておくときは、付属のボディキャップ、または別売りのボディキャップBF-1Aを装着して、カメラの内部を保護してください (旧タイプのボディキャップBF-1は装着できません)。

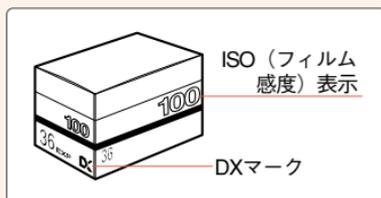


フィルムを入れましょう。

3

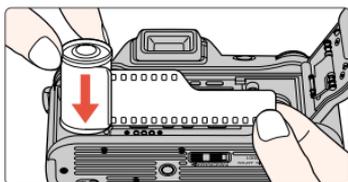
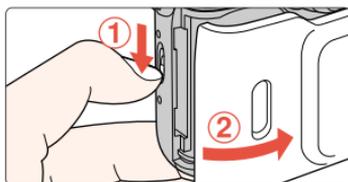
DXマーク付フィルムをご使用ください。フィルム感度は自動設定されます (ISO25~5000)。

電源スイッチをONにし、フィルムを入れて、裏ぶたを閉じると、自動的に1コマ目まで空送りされます。



3.1

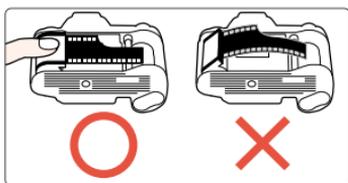
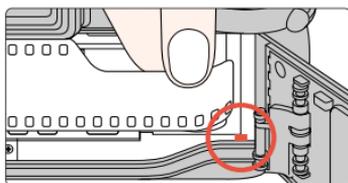
電源スイッチをONにし、裏ぶたロック解除レバーをスライドさせて裏ぶたを開け、フィルムパトローネを入れます。



・フィルムパトローネの下側を先に入るとスムーズに入ります。

3.2

フィルムの先端をカメラの赤色マークに合わせます。



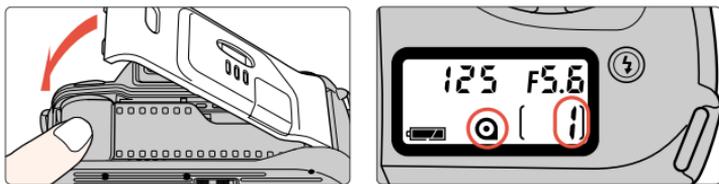
- ・フィルムの先端がカメラの赤色マークより奥に入らないようにしてください。
- ・フィルムが浮き上がらないように、フィルムパトローネを押さえてください。

☑ここをチェックしましょう。

- このカメラはDXマーク付フィルム専用です。それ以外のフィルムは使用できませんのでご注意ください。無理に装てんしようとしても、表示パネルにQが点滅、Eが点灯して警告します
- シャッター幕は非常に薄い幕でできています。フィルムの出し入れの際、指やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように十分注意してください。
- フィルムが正しく装てんされたかどうかは、表示パネルで確認できます。
- 屋外でフィルムを交換するときは、直射日光を避けてください。

3.3

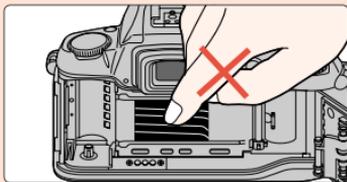
裏ぶたをパチンと音がするまで静かに閉じると、フィルムが自動的に1コマ目まで空送りされます。



- ・表示パネルにフィルム在中マークQが点灯し、フィルムカウンターに「1」が表示されると、フィルムの装てんは完了です。
- ・表示パネルにErrとQが点滅している場合は、フィルムが正しく装てんされていません。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。
- ・フィルムの巻き戻しは、撮影フィルムが終了すると自動的に行われます（P.29）。
- ・フィルムの規定枚数は、フィルム確認窓で確認できます。

注意 フィルムの出し入れの際のご注意

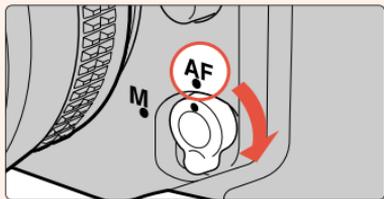
シャッター幕は非常に薄い幕でできています。フィルムの出し入れの際、指やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように十分注意してください。



4

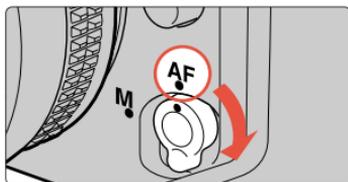
フォーカスモード切り換えダイヤルをAFにセットします。

フォーカスモード切り換えダイヤルをAF（オートフォーカス）にセットすれば、ピント合わせはカメラまかせで撮影が行えます。



4.1

フォーカスモード切り換えダイヤルをAF（オートフォーカス）にセットします。



- フォーカスモード切り換えダイヤルの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。
- ピントを合わせるときは、シャッターボタンの半押しを続けてください (P.17)。

4.2

オートフォーカスが苦手な被写体について

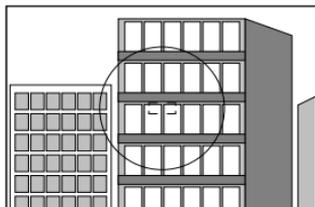
- 次ページのような被写体は、オートフォーカスが苦手な被写体です。このような場合は、おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせて、フォーカスロック (P.40) を行い、そのまま構図を元に戻して撮影します。
- フォーカスロックが行えない場合は、M（マニュアルフォーカス P.39）に切り換えてマニュアルでピントを合わせます。

☑ここをチェックしましょう。

- フォーカスモードをAF（オートフォーカス）にセットしたときは、レンズの距離リングは手で回さないでください。
- AF（オートフォーカス）にセットすると、ピントが合っていない時はシャッターはきれません。フォーカスモードの詳細はP.38をご覧ください。



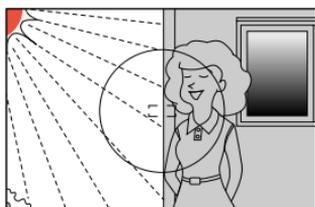
明暗差がはっきりしない場合（白壁や背景と同色の服をきている人物等）



連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓等）



フォーカスフレーム内に遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物や木の前の人物等）

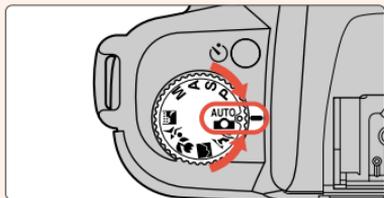


フォーカスフレーム内の被写体の輝度差が著しく異なる場合（太陽が背景に入った日陰の人物等）

露出モードダイヤルを^{AUTO}にセットします。

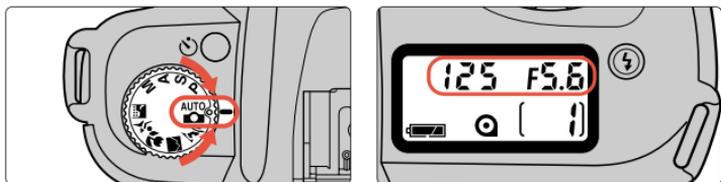
5

露出モードダイヤルを^{AUTO} (AUTOモード) にセットすれば、露出はカメラまかせで撮影が行えます。



5.1

露出モードダイヤルを^{AUTO} (AUTOモード) にセットします。



- ・シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピードと絞り値が表示パネルとファインダー内表示に再点灯します。

☑ここをチェックしましょう。

□このカメラには10種類の露出モードがあります。各露出モードの特長を活用すれば、被写体や撮影意図に合わせて効果的な撮影が行えます。その中でも、5種類のイメージプログラムでは、それぞれの状況に応じてカメラが最適な露出制御を行うので、簡単にいろいろな撮影が楽しめます。

各露出モードの特長は5.2を、撮影方法や詳細は各表示の下に表記された参照ページをご覧ください。

5.2

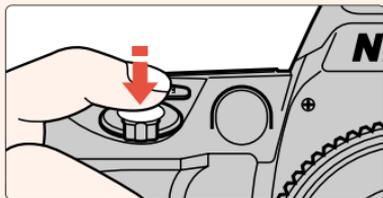
このカメラの露出モードについて

表示	名称	特長・こんな時に使用すると便利です。
 P.41	AUTOモード	カメラが全て露出制御を行います。スナップなどシャッターチャンスを逃さずに、すぐに撮影したい時などに便利です。
P P.42	マルチプログラムオート	カメラが露出制御を行います。プログラムシフト (P.42) や露出補正 (P.52) により、撮影者の意図も反映できます。
S P.43	シャッター優先オート	シャッタースピードをセットすれば、絞りはカメラが制御します。動きのある被写体を速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで動きを強調したりすることが可能です。
A P.44	絞り優先オート	絞り値をセットすれば、シャッタースピードはカメラが制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなどの被写界深度 (ピントの合う前後の範囲) を考慮した撮影に最適です。
M P.45	マニュアル	シャッタースピードも絞り値も自由にセットできます。他の露出モードでは意図した撮影が難しい時などに便利です。
イ メ ジ ム	 P.48	ポートレートモード 被写界深度を浅くして (ピントの合う前後の範囲を狭くして) 背景をきれいにボカし、立体感のある人物写真が撮影できます。
	 P.48	風景モード 被写界深度を深くして (ピントの合う前後の範囲を広くして)、近景から遠景までピントの合った風景写真が撮影できます。
ロ グ ラ ム	 P.48	クローズアップモード 被写界深度を比較的浅くして被写体を浮き立たせ、背景に美しいボケが得られるクローズアップ写真が撮影できます。
	 P.49	スポーツモード シャッタースピードを速くして、一瞬の動きを写し止めた、躍動感のあるスポーツ写真が撮影できます。
	 P.49	夜景モード 暗い被写体に適した露出制御により、夕景写真や夜景写真が撮影できます (夜景を背景に人物を撮影する際、スピードライトを使用すればその両方を自然に表現できます)。

カメラを構え、ピントを合わせます。

6

シャッターボタンの半押しを続けると、カメラがピント合わせを行い、ピントが合うとファインダー内のピント表示●が点灯します。



6.1

カメラを正しく構えます。



- わきを締め、ひじは軽く体につけます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。
- 右手で、カメラのグリップを包みこむように持ち、左手はレンズを支えます。

要点 手ブレとシャッタースピードについて

撮影に手ブレは禁物です。撮影時の目安として、シャッタースピードは「1/装着しているレンズの焦点距離」秒より高速になるようにこころがけてください（例：50mmレンズの場合は、1/50秒より高速になるように）。低速時は三脚のご使用をおすすめします。

注意 構図を決める際のご注意

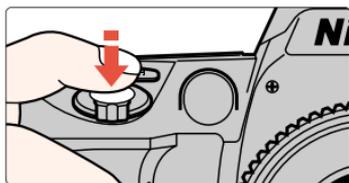
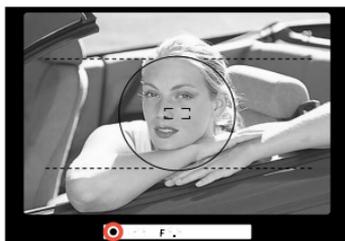
このカメラのファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の約90%です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。ただし、ネガフィルムをサービスサイズなどでプリントした場合には、実際に撮影した画面よりも、画面の周囲が数ミリカットされる傾向がありますので、ご注意ください。

☑ここをチェックしましょう。

- ファインダー像がはっきりしない時は、視度調節 (☞ P.58) を行ってください。ファインダー像が確認しやすくなります。
- 主要被写体 (ピントを合わせたいものや人物など) がフォーカスフレームから外れる場合は、「フォーカスロック撮影」 (☞ P.40) を行ってください。
- 写真に日付や時刻を写し込むこと (☞ P.54) や、写真サイズをパノラマに切り換えること (☞ P.53) ができます。

6.2

およその構図を決め、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。



- ・ピントを合わせたいものにフォーカスフレームを重ねてシャッターボタンの半押しを続けると、自動的にピントが合い、ファインダー内表示に次の表示が点灯します。

- 点灯 被写体にピントが合うと点灯します。被写体が動いている時は、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。
- 点滅 オートフォーカスでピント合わせができない時に点滅します。

被写体が暗い場合は、AF補助光を自動的に照射してピント合わせを行います。ピント合わせについての詳細は、P.38をご覧ください。

- ・ピントを合わせたいものがフォーカスフレームから外れる場合は、「フォーカスロック撮影」 (☞ P.40) を行ってください。
- ・オートフォーカスが苦手な被写体については、P.22をご覧ください。

7

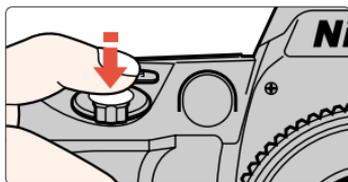
ファインダー内表示を確認し、シャッターをきります。

ピント表示●を確認し、シャッターボタンをゆっくりと深く押し、シャッターをきってください。



7.1

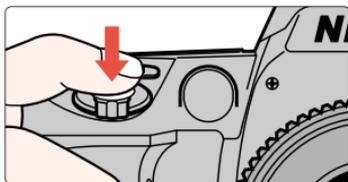
シャッターボタンを半押しし、ファインダー内の表示を確認します。



- ・ファインダー内表示にスピードライト推奨マークが点滅した場合は内蔵スピードライトをご使用ください (P.30/60)。
- ・表示パネルやファインダー内表示に警告が行われた場合は、P.72を参考に対応してください。

7.2

ピント表示●の点灯を確認して、静かにシャッターボタンを押し込みます。

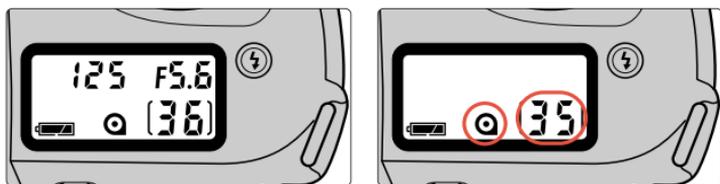


- ・シャッターをきるとフィルムは自動的に1コマ巻き上げられ、次の撮影の準備が完了します。

☑ここをチェックしましょう。

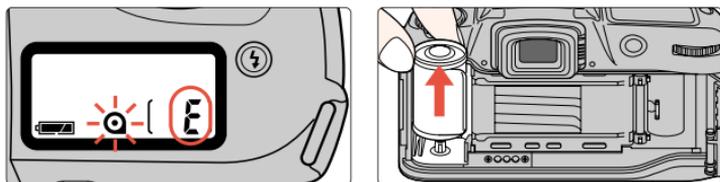
- ファインダー内表示でピントと露出の確認ができます。警告が行われた場合、P.72を参考に対応してください。
- フィルムは、最後のコマが撮影されると自動的に巻き戻されます。
- フィルムの途中巻き戻しについては、P.36をご覧ください。
- セルフタイマー撮影に関しては、P.57をご覧ください。

7.3 フィルムは、最後のコマが撮影されると自動的に巻き戻されます。



- ・撮影フィルムが終了すると、自動的に巻き戻しが開始されます。巻き戻し中は、表示パネルにQが点灯し、フィルムコマ数がカウントダウン表示されます。規定枚数を超えて撮影したコマは現像処理上カットされることがあります。

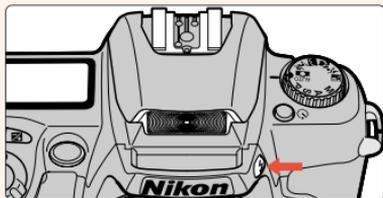
7.4 巻き戻しの完了を確認してフィルムを取り出します。



- ・表示パネルにQが点滅し、Eが点灯すると巻き戻しは完了です。直射日光を避けて裏ぶたを開け、パトローネを斜め上に持ち上げながらフィルムを取り出してください。フィルム巻き戻し完了後に、パトローネを取り出さないままシャッターボタンを押すと、Q表示が点滅して警告します。

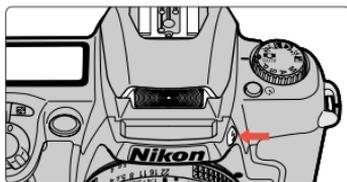
内蔵スピードライトを使ってみましょう。

シャッターボタンを半押ししたときファインダー内表示にスピードライト推奨マークが点滅した場合は、内蔵スピードライトを使ってみましょう。



8.1

スピードライトロック解除ボタンを押してスピードライトを上げます。



- ・スピードライトを上げると充電が開始され、完了するとファインダー内にレディライトが点灯します（半押しタイマー作動中）。
- ・スピードライトを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときは、電池の消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

要点 TTL-BL調光について

マルチパターン測光で得た明るさの情報をもとに、主要被写体と背景の露出を考慮して、スピードライトの発光量をバランスよくコントロールします（詳細についてはP.60をご覧ください）。

注意 内蔵スピードライトの連続使用について

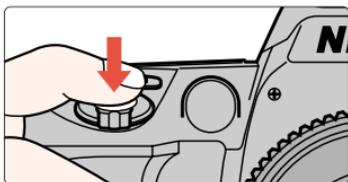
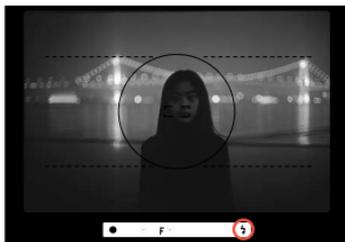
内蔵スピードライトを連続的に使用すると、スピードライトを保護するため一時的に発光が制限されます。少し時間をおくと発光可能になります。

☑ここをチェックしましょう。

- 内蔵スピードライトはガイドナンバー15 (ISO100・m) で28mmレンズの画角をカバーします。
- CPU内蔵ニッコールレンズを使用すれば、TTL-BL調光が行われますので、簡単にスピードライト撮影が楽しめます (☞ P.60)。
- スピードライト使用時は、レンズフードを取り外して (または収納して) ください。また、一部のズームレンズではケラレが発生します (☞ P.63)。

8.2

ファインダー内にレディライト  が点灯していることを確認し、構図を決め、ピントを合わせて撮影します。



- ・シャッターをきいた後レディライト  が約3秒間点滅した場合は、フル発光して露出不足の恐れがあります。調光範囲 (光の届く範囲・☞ P.60) を再確認して、撮影をし直してください。
- ・ここで説明しているのは「ノーマルシンクロモード」による撮影方法ですが、他にも人物の目が赤く写るのを軽減させる「赤目軽減モード」や、背景の夜景や夕景の雰囲気を生かした「スローシンクロモード」などによる撮影方法もあります。詳細についてはP.61をご覧ください
- ・被写体が暗い場合は0.5~3mの範囲で、自動的にAF補助光 (☞ P.38) を照射してピントを合わせを行います。

コラム：ピントと露出の豆知識

ピントと露出、そして測光は写真撮影の重要なポイント。それぞれの特徴を知っておくことによって、表現の幅を広げることができます。

ピント（フォーカス）/被写界深度

ある一点にピントを合わせると、その前後にもピントの合う範囲があります。このピントの合う範囲を被写界深度といい、撮影距離、レンズの焦点距離、絞りなどによって変化します。特にレンズの絞りは、絞る（大きい数値にする）とピントの合う範囲が前後に広くなり、これを被写界深度が深いといいます。逆にレンズの絞りを開く（小さい数値にする）とピントの合う範囲が前後に狭くなり、これを被写界深度が浅いといいます。（☞ P.38）

露出（露光）

被写体（写したい対象物）をカメラのレンズを通してフィルムに感光させて記録することを露出（露光）といいます。この時、被写体の明るさとフィルムの感度に合わせ、シャッタースピードと絞りを調節して、フィルムに最適な光（適正露出）を与えることが大切です。

このカメラは適正露出を得るため、シャッタースピードと絞りの両方をカメラが決める「AUTO・マルチプログラムオート・イメージプログラム」、シャッタースピードを撮影者自身がセットすれば絞りはカメラが決める「シャッター優先オート」、絞りを撮影者自身がセットすればシャッタースピードはカメラが決める「絞り優先オート」、そして、カメラの露出計を参考にシャッタースピードも絞りも撮影者自身がセットする「マニュアル」という露出モードを備えています。（☞ P.41）

測光

撮影しようとする被写体（写したい対象物）の明るさを測ることを測光といいます。測光は露出（露光）を決める時の重要な情報源で、これによりフィルムに最適な光（適正露出）を与えるシャッタースピードと絞りの組み合わせが決定されます。

通常、被写体の含まれる撮影画面内の明るさが必ずしも一様ではないため、F60Dではその画面を6分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報を利用して適正露出を決める「マルチパターン測光」と、撮影画面内中央部の明るさに重点を置いて適正露出を決める「中央部重点測光」という2種類の測光モードを備えています。

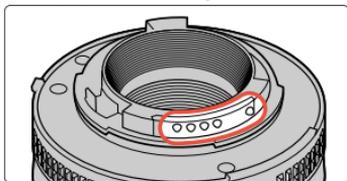
なお、DタイプAFニッコールを装着すると、さらに距離情報を加味した「3D-6分割マルチパターン測光」となります。（☞ P.50）

操作の詳細

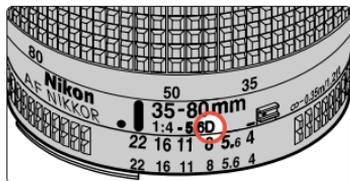
このカメラの各機能をレンズ、フィルム、
ピント、露出、その他の機能の順に
詳細に説明しています。

このカメラに使用可能なレンズについて

このカメラには、CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）をご使用ください。特に、DタイプAFニッコールレンズを装着すれば、全ての機能が使用できます。



CPU内蔵ニッコールレンズにはCPU信号接点があります。



DタイプAFニッコールの見分け方

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には

- ・使用可能な露出モードには制限があります。

露出モードをM（マニュアル）にセットした場合のみ、CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着して撮影できます（M以外の露出モードでは、シャッターはきれません）。ただし、カメラの露出計の使用や、絞りボタンとコマンドダイヤルによる絞りのセットはできません。表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、F-ととなりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

注意 使用できないCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等について

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますので注意してください。

- ・AFテレコンバーターTC-16AS
- ・Ai改造をしてないニッコールレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- ・フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5 600mm f/5.6）
- ・フィッシュアイ（6mm f/5.6 7.5mm f/5.6 8mm f/8 OP10mm f/5.6）
- ・ED180～600mm f/8（No.174166以前の製品）
- ・ED360～1200mm f/11（No.174087以前の製品）
- ・200～600mm f/9.5（No.300490以前の製品）
- ・F3AF用（80mm f/2.8 200mm f/3.5 テレコンバーターTC-16S）
- ・PC28mm f/4（No.180900以前の製品）
- ・PC35mm f/2.8（No.906200以前の製品）
- ・レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- ・レフレックス2000mm f/11（No.200310以前の製品）
- ・メディカルニッコール200mm f/5.6（ホットシューアダプターAS-15を併用すればご使用になれます）
- ・K1リング、K2リング、オート接写リングPK-1、PK-11、BR-2リング、BR-4リング

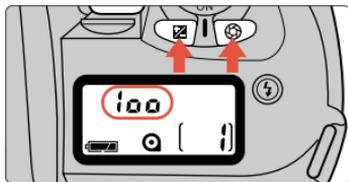
CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズ等について

レンズ	モード	フォーカスマード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスイード	マニュアル	M以外	M	マルチパターン測光		中央部重点測光 ※1
							3D-6分割	6分割	
CPU内蔵ニッコール※2	DタイプAFレンズ ※3	○	○	○	○	○	○	—	○
	AF-S、AF-Iレンズ (Dタイプレンズ)	—	○	○	○	○	○	—	○
	PCマイクロ85mm F2.8D ※4	—	○※5	○	—	○	—	—	○
	AF-Iテレコンバーター	—	○※6	○	○	○	○	—	○
	Dタイプ以外の AFニッコール (F3AF用を除く)	○	○	○	○	○	—	○	○
	Ai-Pニッコール	—	○※7	○	○	○	—	○	○
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等※8	Ai-S、Ai シリーズEレンズ 改造Aiニッコール	—	○※7	○	—	△※9	—	—	—
	メディカル120mm f/4	—	○	○	—	△※9	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	○	—	△※9	—	—	—
	PCニッコール	—	○※5	○	—	△※9	—	—	—
	Ai-S、Ai テレコンバーター	—	○※6	○	—	△※9	—	—	—
	ペロースPB-6 ※10	—	○※6	○	—	△※9	—	—	—
	オート接写リング (PK-11A、12、13、PN-11)	—	○※6	○	—	△※9	—	—	—

- ※1. 露出モードがM（マニュアル）時やAEロック使用時には自動的に中央部重点測光に切り換わります。
- ※2. IXニッコールは装着できません。
- ※3. このカメラはVRニッコールレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応していません。必ず手ブレ補正モード切り換えスイッチをOFFにして撮影してください。
- ※4. カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
- ※5. あおり操作を行っていない場合のみ可能。
- ※6. 合成絞り値がf5.6以上明るい場合のみ使用可能。
- ※7. 開放絞り値がf5.6以上明るい場合のみ使用可能。
- ※8. 一部装着不可能なレンズ（※P.34）があります。
- ※9. （露出モードをMに設定）、但し、露出計は使用できません。
- ※10. 縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

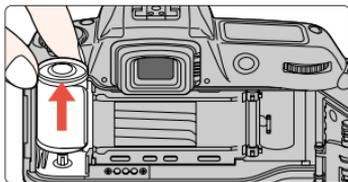
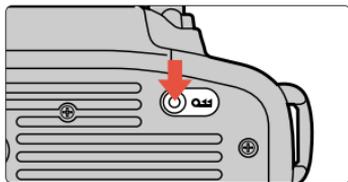
フィルムについて

自動設定されたフィルム感度の確認方法



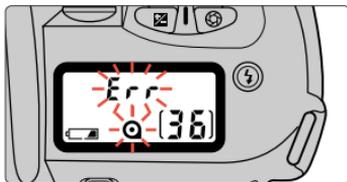
- DXマーク付フィルムにより自動設定されたフィルムのISO感度は、**DX**ボタンと**ISO**ボタンを同時に押すことにより表示され、確認できます。ただし、この2つのボタンを2秒以上押し続けると、各機能のセットが解除されますのでご注意ください（P.59の「インスタントリセット」をご覧ください）。

フィルムの途中巻き戻しについて



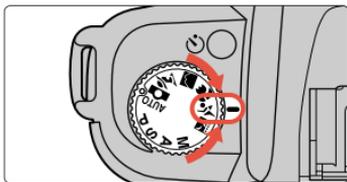
- 撮影途中でフィルムを巻き戻す場合は、途中巻き戻しボタン Half Rewind をシャープペンの先などで一度押してください。巻き戻しが開始されます。表示パネルに**Q**が点滅し、**E**が点灯すると巻き戻しは完了です。裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

■ フィルムの巻き戻しが行われない場合



- 電池容量が極端に低下している場合や低温時には、表示パネルにErrと⊙が点滅して、フィルムの自動巻き戻しが行われなかったり、巻き戻し途中でモーターが停止したりすることがあります。このような時は、いったん電源スイッチをOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにすれば再び巻き戻しが始まります。

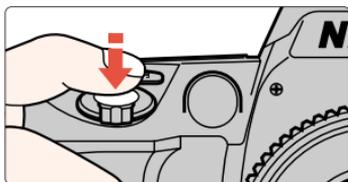
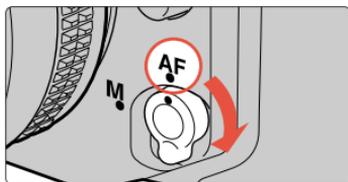
■ フィルム給送モードについて



- フィルム給送は通常、シャッターボタンを1回押し込むごとにシャッターがきかれてフィルムが巻き上げられる1コマ撮影ですが、露出モードダイヤルをスポーツモード（イメージプログラム）にセットすると、シャッターボタンを押している間連続してシャッターがきかれてフィルムが巻き上げられる、連続撮影となります（約1コマ/秒）。

フォーカスモードについて

AF（オートフォーカス）にセットした場合



- フォーカスモード切り換えダイヤルをAFにセットし、シャッターボタンの半押しを続けると、カメラが自動的に被写体にピントを合わせ、ファインダー内表示のピント表示●が点灯して合焦状態であることを知らずす。

オートAFサーボ (AF-A) :

被写体が静止しているか移動しているか、および移動の方向をカメラが判断し、状況に合わせてシングルAFサーボ (AF-S) かコンティニユアスAFサーボ (AF-C) のどちらかをカメラが自動的に選択します。

・シングルAFサーボ (AF-S) :

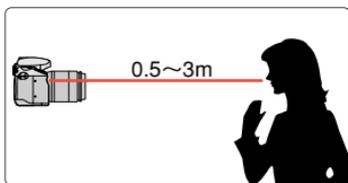
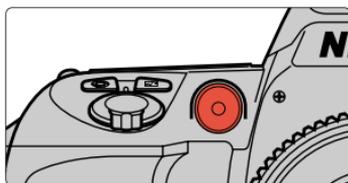
ピントが被写体に合うと、そこで固定 (フォーカスロック) されます。

・コンティニユアスAFサーボ (AF-C) :

被写体の動きに合わせて、ピントを追いつけます。

- いずれの場合もピント表示●が点灯しないとシャッターはきれません。
- 露出モードをスポーツモード (イメージプログラム) にセットすると、はじめからコンティニユアスAFサーボとなり、被写体の動きに合わせてピントを追いつけます。

AF補助光について



- 被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。照射が行われる条件は以下のとおりです。

- フォーカスモードがAFでAFニッコールレンズを装着し、被写体が暗い時。
- 露出モードが風景モードやスポーツモード以外の時。

これらの条件を満たしている時に自動的に照射を行います。キャンセルはできません。使用可能なAFニッコールレンズの焦点距離は24～200mmです。AF補助光が届く距離範囲の目安としては0.5～3mとなります。

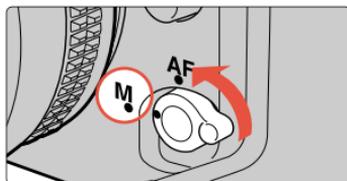
注意 AF補助光の連続使用について

AF補助光を連続的に使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。

要点 別売りスピードライトとアクティブ補助光について

アクティブ補助光付きの別売りスピードライトを使用して、TTLモードで撮影した場合、別売りスピードライト側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。使用可能な別売りスピードライトについては、P.64をご覧ください。

M（マニュアルフォーカス）にセットした場合



- フォーカスモード切り換えダイヤルをMにセットし、レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるようにピントを合わせます。ピント表示 ●の点灯、消灯にかかわらずシャッターをきるすることができます。マニュアルフォーカスは、オートフォーカスが苦手な被写体（☞ P.22）や、AFニッコール以外のレンズ（☞ P.35）を装着しているときにご使用ください。

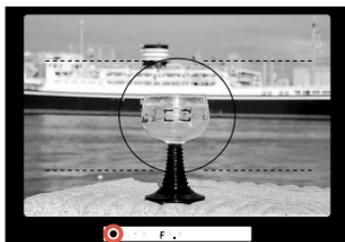
要点 フォーカスイドについて

フォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にセットしたとき、開放絞り値がf/5.6より明るいレンズを装着すると、ファインダー内表示のピント表示によって合焦状態を確認できる「フォーカスイドによるピント合わせ」が行えます。シャッターボタンを半押しして半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回してピント表示 ●を点灯させます。シャッターはいつでもきることができます。

フォーカスロック撮影

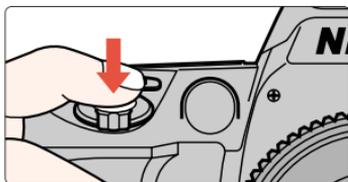
■AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合、主要被写体（ピントを合わせたいものや人物など）がフォーカスフレームから外れる構図の時に使用します。また、オートフォーカスが苦手な被写体（P.22）にも有効です。

1 ピントを合わせたいものにフォーカスフレームを重ねて、シャッターボタンを半押しします。



- ・ピントが合うとピント表示 ●が点灯して、シャッターボタンの半押し中はピントがそのまま固定されます。
- ・露出モードがスポーツモード（イメージプログラム）の時は、フォーカスロック撮影は行えません。
- ・移動していた被写体が静止した場合（コンティニュアスAFからシングルサーボAFに切り換わった場合）にフォーカスロックを行うときは、一度シャッターボタンから指を離して、半押しし直してください。

2 ピント表示 ●が点灯したら、シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影します。



- ・ピント表示 ●の点灯後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。シャッターをきった後も指を離さず、半押し状態からさらにシャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま何度でも撮影できます。

各露出モードによる撮影

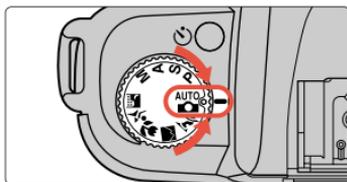
: AUTO (オート)

もっとも簡単に撮影できる露出モードです。露出はカメラまかせで撮影できます。一眼レフを初めてお使いになる方におすすめの露出モードです。

他の機能との組み合わせはP.66をご覧ください。



1 露出モードダイヤルをにセットします。



- ・ (AUTOモード) にセットすると、各機能は下記の状態になります。
測光モード : マルチパターン測光 (P.50)
- ・スピードライト :  ノーマルシンクロモード
- ・プログラムシフト、露出補正、スローシンクロはセットできません。

2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

- ・次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
 - ・ : ND (光量調節用) フィルターを使用してください。
 - ・ : スピードライトを使用してください。

要点

AUTO (オート) とマルチプログラムオートの違いについて
露出制御方法は同じですが、マルチプログラムオートでは、さらにプログラムシフト (P.42)、露出補正 (P.52)、スローシンクロ (P.61) がセットできますので、撮影状況に対してより柔軟に対応することが可能です。

各露出モードによる撮影—つづき—

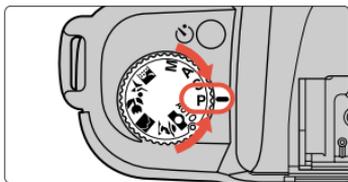
P：マルチプログラムオート

撮影状況に応じて、最適露出となるようカメラが自動的に露出制御を行います。プログラムシフトや露出補正 (P.52) などの併用により、高度な撮影も楽しめます。

他の機能との組み合わせはP.66をご覧ください。



1 露出モードダイヤルをPにセットします。

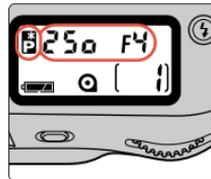


2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

- ・次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
 - ・H I：ND (光量調節用) フィルターを使用してください。
 - ・L o：スピードライトを使用してください。

要点 プログラムシフトについて

マルチプログラムオートで撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることができ、シャッター優先オート



や絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は表示パネルにPが点灯します。解除は、変更したシャッタースピードと絞りの組み合わせをもとの値に戻す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、内蔵スピードライトを使用する (P.60)、インスタントリセットを行う (P.59) などで行えます。

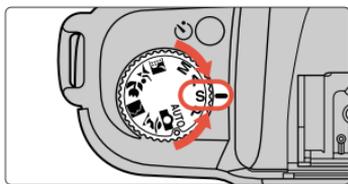
S: シャッター優先オート

撮影者がシャッタースピード(30秒~1/2000秒)をセットすれば、絞りはカメラが自動制御します。スポーツシーンの撮影など被写体の一瞬の動きを速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

他の機能との組み合わせはP.66をご覧ください。



- 1 露出モードダイヤルを**S**にセットして、コマンドダイヤルでシャッタースピード(30秒~1/2000秒)をセットします。



- 2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

- ・次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
 - ・Hi: シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、ND(光量調節用)フィルターを使用してください。
 - ・Lo: シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、スピードライトを使用してください。
- ・--が表示パネルやファインダー内表示に点滅した場合、シャッタースピードが長時間露出(タイム)にセットされています。シャッタースピードを長時間露出以外にセットしてください。長時間露出撮影については、P.46をご覧ください。

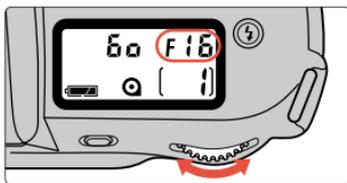
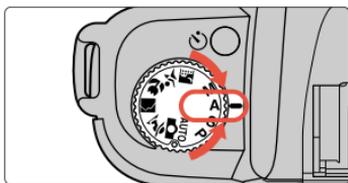
各露出モードによる撮影—つづき—

A：絞り優先オート

撮影者が絞り値（最小絞り～開放絞り）をセットすれば、シャッタースピードはカメラが自動制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞り値を変えることにより調光範囲の変更も行えます（P.60）。他の機能との組み合わせはP.66をご覧ください。



- 1 露出モードダイヤルを**A**にセットして、コマンドダイヤルで絞り値（最小絞り～開放絞り）をセットします。



- 2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

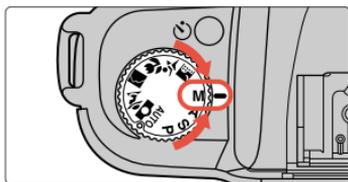
- ・次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
 - ・H1：より大きい数値の絞り値にし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
 - ・L10：より小さい数値の絞り値にし、それでも警告表示が消えないときは、スピードライトを使用してください。

M: マニュアル

シャッタースピード (30秒~1/2000秒) も絞り値 (最小絞り~開放絞り) も、撮影者が自由にセットできるので、ファインダー内の露出インジケータを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。また、シャッタースピードが30秒を超える、長時間露出 (タイム) 撮影もこのモードで行えます。他の機能との組み合わせはP.66をご覧ください。

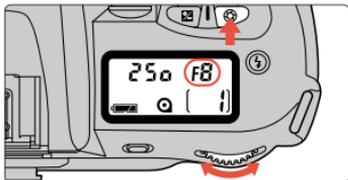
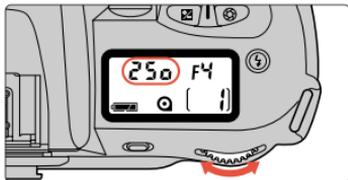


1 露出モードダイヤルをMにセットして、構図を決めます。



- ・M: マニュアルでは自動的に測光モードは、マルチパターン測光から中央部重点測光に切り換わります (☞ P.50)。

2 露出インジケータを確認しながら、シャッタースピードと絞り値をセットします。



- ・シャッタースピード (30秒~1/2000秒) はコマンドダイヤルでセットします。
- ・絞り値 (最小絞り~開放絞り) は絞りボタン \odot を押しながら、コマンドダイヤルでセットします。
- ・シャッタースピードと絞りはどちらを先にセットしてもかまいません。

各露出モードによる撮影—つづき—

要点 露出インジケータについて

露出インジケータの見方は右のとおりです。長時間露出（タイム）撮影を除いて、セットしてあるシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。

適正または0.5段未満のアンダーかオーバー



0.5段以上1.5段未満のアンダー



1.5段以上オーバー



3 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

- ・このモードでのみ、CPU内蔵ニッコール以外のレンズが使用できます。ただし、カメラの露出計の使用や、絞りボタンとコマンドダイヤルによる絞り値のセットはできません。詳細はP.34の「このカメラに使用可能なレンズについて」をご覧ください。

要点 長時間露出（タイム）撮影について

コマンドダイヤルを回して、シャッタースピード表示を30秒の次の--（タイム）にセットすると、30秒以上の長時間露出（タイム）撮影が行えます。シャッターボタンを押すとシャッターが開いたままとなり（表示パネルは--の右側が点滅し、ファインダー内表示はすべて消灯します）、再びシャッターボタンを押すと閉じます。夜景や天体の撮影に便利です。三脚にカメラを固定し、さらにセルフタイマー（P.57）を使用すると手ブレを軽減できます。連続撮影可能時間は、新品リチウム電池を使用して約15時間です。ただし、低温時には電池の性能が低下しますので短くなります。

イメージプログラムによる撮影

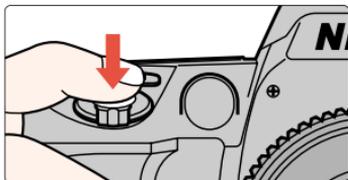
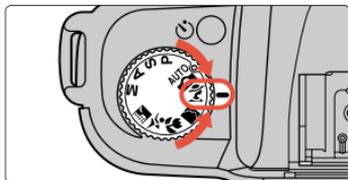
■ イメージプログラムとは

イメージプログラムでは、被写体の動きを考慮したシャッタースピード、被写界深度（ピントの合う範囲）やレンズのボケ具合までも考慮した絞り値など、撮影シーンや被写体に合わせたプログラムがモードごとに用意されており、イメージに近い写真がより簡単に撮影できます。

他の機能との組み合わせはP.66をご覧ください。

■ イメージプログラムの撮影方法

露出モードダイヤルを希望するイメージプログラム表示にセットし、ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。



- ・ 次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
 - ・ **H1**：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
 - ・ **L0**：スピードライトを使用してください。

注意 イメージプログラム撮影時の注意点

- ・ 5つのイメージプログラムでは、プログラムシフト（**☞** P.42）、露出補正（**☞** P.52）は解除されます。また、スピードライトを使用する場合は、各モードによってシンクロモードが自動的に切り換わります（**☞** P.66）。

イメージプログラムによる撮影—つづき—

■ イメージプログラムの種類と特長

👤：ポートレートモード

絞りを開放絞り（小さい数値）気味に設定した露出制御により、被写界深度を浅くして（ピントの合う前後の範囲を狭くして）背景をきれいにボカし、被写体の人物を浮き立たせた立体感のある写真が撮影できます。

おすすめのレンズ：85mm～200mm程度の明るい望遠レンズが効果的です。



🏞️：風景モード

絞りを最小絞り（大きい数値）気味に設定した露出制御により、被写界深度を深くして（ピントの合う前後の範囲を広くして）、近景から遠景までピントの合った風景写真が撮影できます。

広角から望遠レンズまで使用可能です。



- ・撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

🍷：クローズアップモード

絞りを開放側に設定した露出制御により、被写界深度を比較的浅くして被写体を浮き立たせ、背景に美しいボケが得られるクローズアップ写真が撮影できます。

おすすめのレンズ：マイクロニッコールレンズが効果的です。



- ・撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

🏍️：スポーツモード

シャッタースピードが速くなるように設定した露出制御により、動きの激しい被写体の一瞬の動きを写し止めた、躍動感のあるスポーツ写真が撮影できます。

おすすめのレンズ：80mm～300mm程度の望遠レンズが効果的です。



- スポーツモードでは、コンティニュアスAFサーボに切り換わりフォーカスロックは行わずに被写体の動きに合わせてピントを追いつけます。また、シャッターボタンを押している間は連続撮影を行います。

🌃：夜景モード

暗い被写体に適した露出制御により、美しい夕景写真や夜景写真が撮影できます。

また、夜景を背景に人物を撮影する際、スピードライトを使用すればその両方を自然に表現できます。

広角から望遠レンズまで使用可能です。

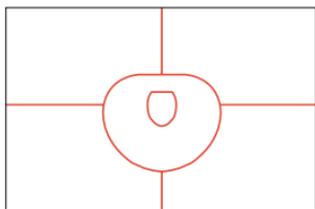


- 撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

測光モードについて

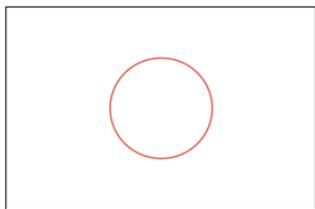
- このカメラの測光は、通常マルチパターン測光で行いますが、露出モードをマニュアルにセットした時や、AEロック（☞ P.51）使用時は、自動的に中央部重点測光に切り換わります。

■マルチパターン測光・3D-6分割マルチパターン測光



マルチパターン測光は撮影画面を図のように6分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報に基づいて最適な露出値を決定します。さらにDタイプAFレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加えレンズから被写体までの距離情報を加味し測光の精度を高めた、3D-6分割マルチパターン測光となります。露出モードをマニュアルにセットした時や、AEロック（☞ P.51）使用時以外はすべてこの方式で測光します。

■中央部重点測光

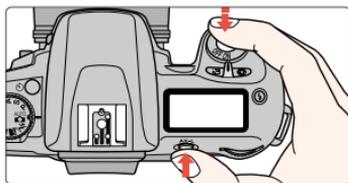
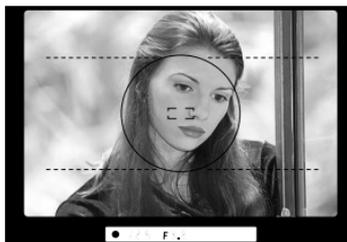


中央部重点測光はファインダー中央部（ ϕ 12mmの円内）を重点的に測光して露出値を決定しますので、 ϕ 12mmの円内の露出を基準に撮影したい場合に適しています。露出モードをマニュアルにセットした時（☞ P.45）や、AEロック使用時（☞ P.51）は、自動的にこの方式に切り換わります。

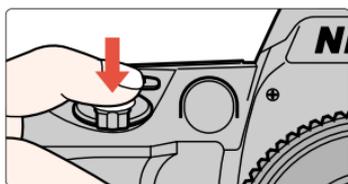
AEロック撮影

■ 適正露出で撮りたい部分に合わせた露出を、固定したまま撮影できます。AEロックボタン AE-Lを押してその露出をカメラに記憶させ、同じ露出のままポーズや構図を変えて撮影する場合などに有効です。測光モードは選択している露出モードに関係なく、中央部重点測光に切り換わります。

- 1 被写体を画面中央に大きくとらえて、シャッターボタンを半押ししたままAEロックボタン AE-Lを押します。



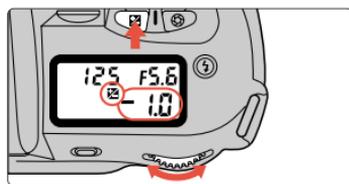
- 2 AEロックボタン AE-Lを押したまま撮影したい構図に戻し、ピントを合わせて撮影します。



露出補正

■露出補正とは、カメラが表示する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、被写体にコントラストの高いものがある時、カラーライド撮影など適正露出の許容範囲（ラチチュード）が小さい時に段階的に露出をずらして撮影する場合などに使用します。このカメラでは、1/2段ステップで±3段の露出補正が行えます（AUTOとイメージプログラムモードでは露出補正は行えません）。

- 1 露出補正ボタン  を押しながら、コマンドダイヤルで、補正量をセットします。



・露出インジケータの表示例



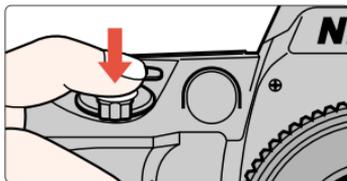
—0.5段補正



+2段補正

- ・補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク  が点灯し、補正量の確認は露出補正ボタンを押すだけで行えます（露出インジケータも表示されます）。
- ・内蔵および別売りスピードライト使用時は、スピードライト側の発光量も同じ量だけ調光補正が行われます。
- ・補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は+側に、背景が暗い場合は-側に補正するのが基本です。

- 2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。



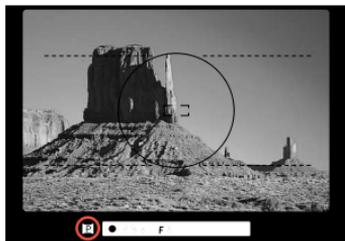
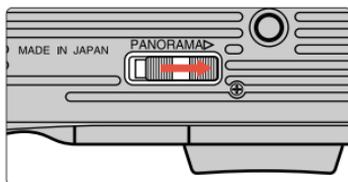
- ・露出補正を解除する場合は、露出補正ボタンを押しながら、コマンドダイヤルで補正量を0にセットするか、インスタントリセット（ P.59）を行ってください（電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

パノラマ撮影

- 標準撮影時の画面サイズはフィルム面上で24×36mmですが、パノラマ撮影時には約13×36mmの範囲が画面サイズとなり、プリント段階で89×254mmのパノラマサイズに引き伸ばされます。



パノラマ切り換えレバーをスライドさせ、パノラマ撮影範囲フレーム内で構図を決めて、撮影します。



- ・パノラマ切り換えレバーをスライドさせると、ファインダー内にパノラマ表示が点灯します。なお、プリント時には画面の周囲が数ミリ程度カットされますので、構図を決めるときには余裕を持たせてください。

注意 パノラマ遮光板の焼損について

パノラマ撮影時、太陽が構図に入るような逆光で撮影を行う場合は、パノラマ撮影用の遮光板の焼損を防止するため、1/15秒以下のシャッタースピードで撮影しないでください。特に露出モードがシャッター優先オートとマニュアルの場合はご注意ください。

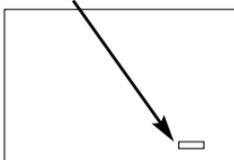
日付と時刻の合わせ方、写し込みについて

- このカメラは、撮影時に「年 月 日」・「日 時 分(24時間制)」・「月 日 年」・「日 月 年」のいずれかを写し込むことが可能です(どの露出モードでも写し込みは行えます)。

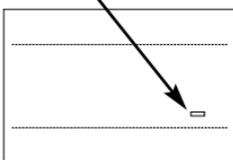
📌 要点 データの写し込み位置について

写し込みデータは図の部分に写し込まれます。この位置に白、オレンジ、黄色等の明るいものがあると、写し込まれたデータが判読しにくくなることがありますので注意してください。

[標準撮影時]



[パノラマ撮影時]

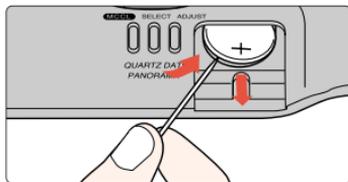
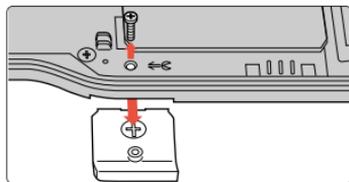


🔋 注意 クォーツデートの電池について

クォーツデート用電源には、本体とは別に、3Vリチウム電池(CR2025タイプ)を1個使用します。電池寿命は約3年ですが、電池性能が低下すると写し込まれた日付や時刻が薄くなることがあります。この場合や、データ表示窓にデータが表示されていないとき、表示が薄いときも同様に電池を交換してください(電池交換後は、必ず日付と時刻を合わせ直してください🔊 P.55)。

🔋 電池(クォーツデート用)の交換方法

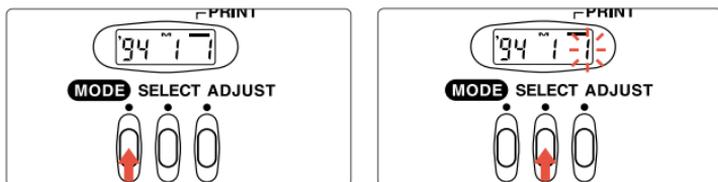
裏ぶたを開け、裏ぶたの内側のビスを外して電池ぶたを外し電池を取り出します。



- ・3Vリチウム電池(CR2025タイプ)1個を⊕極を上にして入れ、電池ぶたを閉じて、裏ぶたの裏側のビスを締めます。

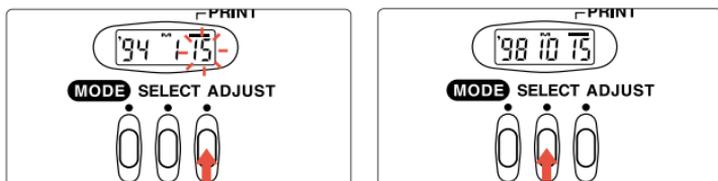
■ 日付と時刻の合わせ方

- 1 MODEボタンを押して修正する日付か時刻を表示させ、SELECTボタンを押して修正する数字を点滅させます。



- ・日付の修正は、「日 時 分」では行えません。「年 月 日」「月 日 年」「日 月 年」のいずれかで行ってください。

- 2 ADJUSTボタンを押して点滅している数字を修正し、修正後、数字の点滅が止まるまでSELECTボタンを押します。

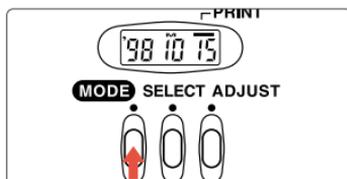


- ・ADJUSTボタンを押し続けると早送りになり、「年」の数字は、1～19、87～99、00の順に変化します。SELECTボタンを押し続け、数字の点滅が止まって写し込みマークが点灯すれば修正は完了です。

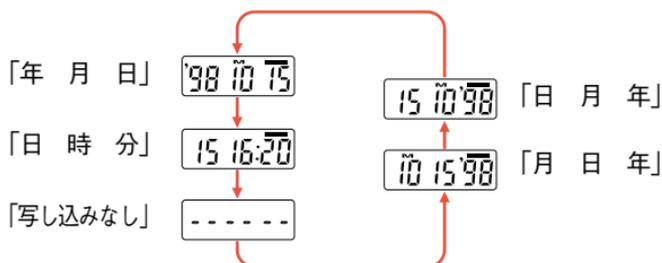
日付と時刻の合わせ方、写し込みについて—つづき—

■ 日付と時刻の写し込み方法

- 1 MODEボタンを押して写し込むデータを表示させます。

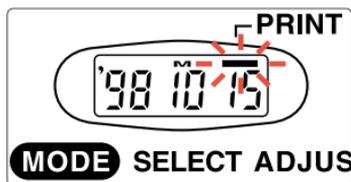
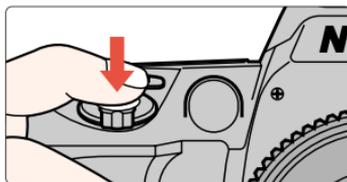


- ・MODEボタンを押すごとに、表示は次のように変化します。



- ・データ表示窓に表示されているデータが写し込まれます。「写し込みなし」の「-----」を表示させると写し込みは行われません。なお、データ写し込みのフィルム感度連動範囲はISO32～3200です。

- 2 撮影します。



- ・シャッターがされると同時にデータ表示窓の写し込みマーク "—" が約2秒間点滅して、写し込みが行われたことを知らせます。

セルフタイマー撮影

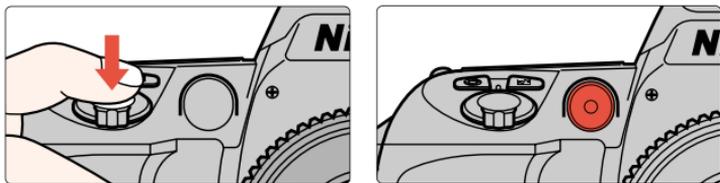
- 記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。三脚等を使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1 セルフタイマーボタンを押して表示パネルにを点灯させます。



- ・セルフタイマーボタンを押すと半押しタイマーが30秒に延長されますので、30秒以内にシャッターボタンを押してください。
- ・AF（オートフォーカス）でピントが合っていない時など、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
- ・適正露出に影響を与えますので、M（マニュアル）以外の露出モードで撮影する場合は、逆入光を防ぐためシャッターボタンを押す前には付属のアイピースキャップ（P.58）で接眼部を覆ってください。
- ・AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させる時にレンズを体で覆わないように注意してください。

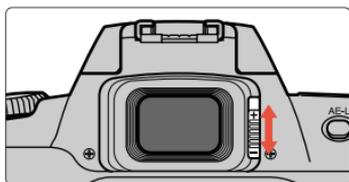
2 構図を決め、ピントを合わせてシャッターボタンを押します。



- ・作動を開始すると、セルフタイマーランプと表示パネルのが8秒間点滅、2秒間点灯して、シャッターがきれます。また、赤目軽減モード（P.61）をセットしている時は、最後の2秒間のランプの点灯が、赤目軽減モード撮影時の明るさになります。
- ・解除する場合は、作動前、作動中に関わらず、再度セルフタイマーボタンを押すか、電源スイッチをOFFにします。また、インスタントリセット（P.59）でも解除できます。作動前には、そのまま30秒間放置しても解除できます。

視度調節機能／アイピースキャップについて

- 視度調節機能により、カメラファインダーをのぞいた時、ファインダー内の像を確認しやすくなります。

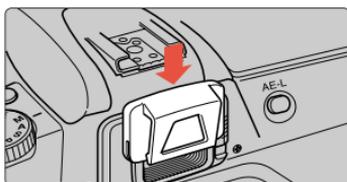


- ・ファインダーをのぞきながら、ファインダー内のフォーカスフレームが、最もシャープに見える位置まで視度調節レバーをスライドさせます。視度調節は $-1.5\sim+1.0\text{m}^{-1}$ （近視～遠視）の間で可能です。また、別売りの接眼補助レンズは $-5.0\sim+3.0\text{m}^{-1}$ の間で9種類が用意されています。

注意 視度調節レバーをスライドさせる際のご注意

ファインダーをのぞきながら視度調節レバーをスライドさせる際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

- アイピースキャップや接眼補助レンズ等のファインダーアクセサリの取り付け方

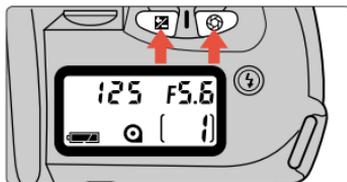


- ・アイピースキャップや接眼補助レンズをカメラのファインダー接眼部に取り付ける場合は、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。また、アイピースキャップや接眼補助レンズを取り外して接眼目当てを取り付ける場合は、接眼目当てに表記されている「Nikon DK-10 JAPAN」の文字が下になるように取り付けます。

インスタントリセット/リリースソケットについて

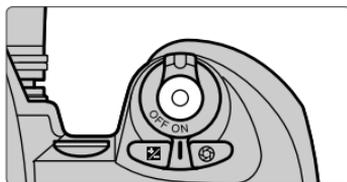
- インスタントリセットを行えば、一部の機能を簡単に初期状態に戻すことができます。

露出補正ボタン \square と絞りボタン \odot を2秒以上押し続けます。



- ・リセットされる機能は以下のとおりです。
 - プログラムシフト：解除されます。
 - 露出補正：解除されます。
 - シンクロモード：露出モードが夜景（イメージプログラム）のときはスローシンクロ、その他の場合はノーマルシンクロになります。
 - セルフタイマー：解除されます。
- ・各機能の初期状態や組み合わせについては、P.66をご覧ください。
- ・露出補正ボタン \square と絞りボタン \odot を押す時間が2秒未満のときは、装着しているフィルム感度の確認が行えます（ P.36 ）。

- シャッターボタンにリリースソケットを取り付ける改造を引き受けています（有料）。詳しくは当社サービス機関（裏表紙参照）にお問い合わせください。



- ・シャッターボタンにリリースソケットを取り付け、ケーブルリリースAR-3（別売り）を使用して撮影すると、夜景や接写撮影など低速シャッター時の手ブレ防止に効果があります。

スピードライト撮影

■内蔵スピードライトとTTL-BL調光について

このカメラには28mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー15 (ISO100・m) のスピードライトが内蔵されています。このスピードライトはマルチパターン測光で得た明るさの情報をもとに、主要被写体と背景の露出を考慮してスピードライトの発光量をバランスよくコントロールするTTL-BL調光を行いますので、自然な感じのスピードライト写真が撮影できます (CPU内蔵ニッコールレンズ使用時)。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影でも主要被写体の陰影を弱めたいときや人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに補助光としてもご使用いただけます。

また、このカメラは、ノーマルシンクロ (通常のシンクロモード)、赤目軽減、スローシンクロ、赤目軽減スローシンクロモードの4つのシンクロモードを備えています。

- ・CPU内蔵ニッコール以外のレンズでは、背景の露出が考慮されない、TTL調光となります (できるだけ、CPU内蔵ニッコールレンズをご使用ください)。

■調光範囲 (光の届く範囲) について

スピードライトは、使用するフィルムのISO感度と絞りによって調光範囲 (光の届く範囲) が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度 < >内はガイドナンバー						調光範囲 (m)
25<8>	50<11>	100<15>	200<21>	400<30>	800<42>	
—	—	1.4	2	2.8	4	2~10.6
—	1.4	2	2.8	4	5.6	1.4~7.5
1.4	2	2.8	4	5.6	8	1~5.3
2	2.8	4	5.6	8	11	0.7~3.8
2.8	4	5.6	8	11	16	0.6~2.7
4	5.6	8	11	16	22	0.6~1.9
5.6	8	11	16	22	32	0.6~1.3
8	11	16	22	32	—	0.6~0.9

- ・スピードライト光の届く距離は、ガイドナンバー (このカメラの内蔵スピードライトの場合は15) ÷セットした絞りによっても、割り出すことができます。

■シンクロモードの種類と特長

👁️：赤目軽減モード

赤目軽減モードにセットしてスピードライト撮影を行えば、スピードライトが発光する前に赤目軽減ランプが約1秒間点灯して、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減することができます。



👁️^{SLOW}：スローシンクロモード

スピードライト撮影では、通常シャッタースピードが1/125秒に自動的にセットされますが、このモードでは背景の露出が考慮されてより低速域まで制御されます。したがって、背景の夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影が行えます。



- ・赤目軽減モードとスローシンクロモードは、表示パネルに赤目軽減スローシンクロ表示👁️^{SLOW}を点灯させることにより、同時にセットすることもできます。
- ・セット可能なシンクロモードは、露出モードによって異なる場合があります。各シンクロモードと各露出モードの組み合わせは、P.66の「各モードの組み合わせについて」をご覧ください。

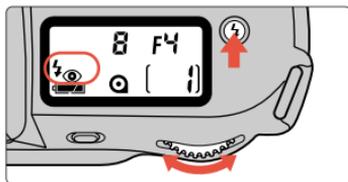
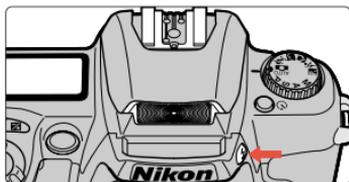
📢 注意 シンクロモードごとのご注意

- ・赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモードでは、シャッターボタンを押し込んでから約1秒間赤目軽減ランプ(☞P.2)が点灯した後スピードライトが発光しますので、シャッターがきれるまでカメラや被写体の人物が動いたりしないように注意してください(シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすりできません)。
- ・装着するレンズによっては赤目軽減ランプの光がレンズによってケラレ、画面内の人物の位置によっては赤目軽減効果がそこなわれることがあります。
- ・スローシンクロモードと赤目軽減スローシンクロモードでは、シャッタースピードが遅くなりますので手ブレに注意してください(三脚のご使用をおすすりします)。

スピードライト撮影—つづき—

■内蔵スピードライトの撮影方法

- 1 スピードライトロック解除ボタンを押してスピードライトを上げ、シンクロモードボタン  を押しながらコマンドダイヤルを回してシンクロモードをセットします。



- ・スピードライトを上げると充電が開始され、完了するとファインダー内にレディライト  が点灯します。
- ・ノーマルシンクロ  をセットした時は、シンクロモードボタン  から指を離すと表示パネルの  は消灯します。
- ・スピードライトを収納するときは手で軽く押し下げます。

- 2 露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。

- ・露出モードごとの、セット可能なシャッタースピードと絞りは下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り	参照ページ
AUTOモード マルチプログラムオート イメージプログラム	カメラが自動的に 1/125秒にセット※1	カメラが自動的にセット	☞ P.41
シャッター優先オート	1/125秒～30秒※2		☞ P.42
絞り優先オート	カメラが自動的に 1/125秒にセット※1	任意の絞り※3	☞ P.43
マニュアル	1/125秒～30秒※2、 タイム		☞ P.44
			☞ P.45

※1：マルチプログラム、夜景（イメージプログラム）、絞り優先オートの各モードでスローシンクロや赤目軽減スローシンクロをセットした時を除きます（シャッタースピードは1/125秒以下の低速シャッタースピードで変化します）。

※2：1/125秒より高速のシャッタースピードにセットしてある場合は、内蔵スピードライトを上げると（別売りスピードライトの場合は電源をONにすると）自動的に1/125秒にセットされます。

※3：調光範囲は使用フィルムのISO感度と絞りによって決まります。絞り優先オートまたはマニュアル時の絞りのセットは、P.60の調光範囲を考慮して行ってください。

3 ファインダー内にレディライト が点灯していることを確認し、調光範囲 (P.60) を考慮して撮影します。

- ・シャッターをきった後レディライト  が約3秒間点滅した場合は、フル発光して露出不足の恐れがあります。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。
- ・AF (オートフォーカス) で撮影時に被写体が暗い場合は、自動的にAF補助光 ( P.38) を照射してピントを合わせます。
- ・露出モードがAUTOまたはマルチプログラムオートの時、カメラが自動設定する開放側の限界絞り値は使用するフィルム感度により異なります。P.65をご覧ください。

内蔵スピードライトに使用可能なレンズについて

内蔵スピードライトには、28mmから200mmまでのCPU内蔵ニッコールレンズが使用可能です。

- ・AF300mm f/4、AF-S ED 300mm f/4はご使用になれます。
- ・AF-S17~35mm f/2.8、AF ED18~35mm f/3.5~4.5、AF20~35mm f/2.8はご使用になれません。
- ・レンズフードは取り外して使用してください。
- ・マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- ・下記のズームレンズではケラレが発生し、写真の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

ケラレの起きるAFズームレンズ	注意していただきたいこと
AF24~50mm f/3.3~4.5	35mm以上で使用可能
AF24~85mm f/2.8~4	50mmの0.7m以上と70mm以上の0.6m以上で使用可能
AF24~120mm f/3.5~5.6	35mmの1.5m以上と50~70mmの1m以上で使用可能
AF-S ED 28~70mm f/2.8	70mmの1.2m以上で使用可能
AF28~80mm f/3.5~5.6	28mmの1m以上で使用可能
AF28~85mm f/3.5~4.5	35mmの1.5m以上で使用可能
AF28~200mm f/3.5~5.6	35mm以上で使用可能
AF35~70mm f/2.8	50mm以上で使用可能
AFマクロ ED 70~180mm f/4.5~5.6	70mmの1.5m以上と85mmの1m以上で使用可能
AF-S ED 80~200mm f/2.8	105mm以上で使用可能 ただし105mmで2m以内は使用不可

スピードライト撮影—つづき—

■使用可能な別売りスピードライトについて

使用可能な別売りスピードライトと可能な撮影は下表のとおりです（内蔵スピードライトと別売りスピードライトを同時に使用することはできません）。装着レンズはCPU内蔵ニッコールレンズを基準に説明しています（CPU内蔵ニッコールレンズ以外のレンズのご使用はおすすめできません）。

可能な撮影 スピードライト名	TTL-BL調光 (※1)	外部自動調光	マニュアル	マルチ フラッシュ	スレーブ 発光
SB-28/28DX	○	○	○	○	—
SB-27	○	○	○	—	—
SB-26	○	○	○	○	○
SB-25	○	○	○	○	—
SB-24	○	○	○	○	—
SB-23、SB-29 (※2)	○	—	○	—	—
SB-21B (※2)	○	—	○	—	—
SB-22	○	○	○	—	—
SB-22s	○	○	○	—	—
SB-20	○	○	○	—	—
SB-16B	○	○	○	—	—
SB-15	○	○	○	—	—
SB-11 (※3)	○	○	○	—	—
SB-14 (※3)	○	○	○	—	—
SB-140 (※3)	○	○	○	—	—

※1：露出モードをマニュアルにセットした場合、簡易的なTTL-BL調光（※P.66）となります。

※2：SB-21B・SB-29使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm、105mm、200mm、70～180mm）レンズ装着時のみ可能です。

※3：SB-11、14、140を使用してTTLモードを使用する場合は、接続にTTL調光コードSC-23が必要です。

AモードまたはMモードを使用する場合は、SB-11、14にはSC-13にSU-2を、SB-140にはSC-13にSU-3を併用するか、AS-15にSC-11かSC-15を併用して接続します。

・SB-140使用時の紫外線および赤外線撮影は、SB-140がMモード時のみ可能です。

●詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

TTLモードが可能な別売りスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、Dグループカメラに該当する箇所をお読みください。

別売りスピードライト使用時のご注意

- スピードライト使用時の同調シャッタースピードは1/125秒以下の低速シャッタースピードです。
- TTLモード時のフィルム感度連動範囲はISO25～800です。
- 赤目軽減発光はカメラ側の赤目軽減ランプにより行います。
- 別売りスピードライトにアクティブ補助光機能がある場合、カメラ側のAF補助光の代わりにスピードライト側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。ただし、TTLモード以外に設定した場合はカメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。
- TTLモード以外に設定してスピードライト撮影する場合は、露出モードをAまたはMに設定してください。
- 露出モードがAUTOまたはPのとき、カメラが自動設定する開放側の限界絞り値は、使用するフィルム感度によって下表のように制御されます。

フィルム感度 (ISO)	25	50	100	200	400	800
開放側の限界絞り値 (内蔵スピードライト)	2	2.4	2.8	3.3	4	4.8
開放側の限界絞り値 (別売りスピードライト)	2.8	3.3	4	4.8	5.6	6.7

※ISO1段に対し、絞りは1/2段変化します。また、フィルム感度が表の中間値の場合も、上下のフィルム感度から比例的に変化します。なお、制御される絞り値よりも開放F値が暗い場合は、装着レンズの開放側のF値によって制御されます。

- シンクロターミナルを必要とする際には、ホットシューアダプターAS-15（別売り）をご使用ください。
- 他社製のスピードライト（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリシュー部の小さな接点に複数の接点に触れてしまうもの）を使用しないでください。カメラの機能が正常に働かないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

各モードの組み合わせについて

■各露出モードと各機能の組み合わせを一覧表にしてあります。装着レンズはAFニッコール（AF-S、AF-I、IXニッコール、F3AF用を除く）を基準に説明しています。

各機能 露出モード名	AFモード	AF補助光	プログラムシフト	露出補正	測光モード（※1）	ノーマルシンクロ	赤目軽減	赤目軽減スローシンクロ	スローシンクロ
	P.38	P.38	P.42	P.52	P.50	P.30	P.61	P.61	P.61
オート	AF-A	○	—	—	マルチバタ-	◎	○	—	—
P マルチプログラム	AF-A	○	○	○	マルチバタ-	○	○	○	○
S シャッター優先オート	AF-A	○	—	○	マルチバタ-	○	○	—	—
A 絞り優先オート	AF-A	○	—	○	マルチバタ-	○	○	○	○
M マニュアル（※2）	AF-A	○	—	○	中央部重点	○	○	—	—
ポートレート	AF-A	○	—	—	マルチバタ-	◎	○	—	—
風景	AF-A	—	—	—	マルチバタ-	◎	○	—	—
クローズアップ	AF-A	○	—	—	マルチバタ-	◎	○	—	—
スポーツ	AF-C	—	—	—	マルチバタ-	◎	○	—	—
夜景	AF-A	○	—	—	マルチバタ-	—	—	○	◎

AF-A：オートAFサーボ

AF-C：コンティニユアスAFサーボ

○：セットできます。

◎：露出モードがセットされると、自動的にこのモードにセットされます（ただし、他のシンクロモードへの切り換えも可能です）。

—：セットできません。

※1：いずれの露出モードでも、AEロック使用時（ P.51）は中央部重点測光となります。

※2：CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した場合、露出モードがM（マニュアル）でのみ撮影が行えます。ただし、カメラの露出計の使用や絞りボタンとコマンドダイヤルによる絞りのセットはできません（レンズの絞りリングでセットしてください）。また、P.34の「使用可能なレンズについて」もご覧ください。

・各シンクロモードは、TTL-BL調光（ P.60）で制御されますが、露出モードをマニュアルにセットした場合は、背景の露出の考慮がややおおまかになる簡易的なTTL-BL調光となります。

資料編

別売りアクセサリー、
カメラと電池の取り扱いについて、
仕様、索引などが書かれています。

別売リアクセサリーについて

■ここでは、別売リアクセサリーのうち代表的なものをご紹介します。この他にも撮影領域を拡げるため、数多くの別売リアクセサリーが用意されています。詳細はカタログ等をご覧ください。

専用セミソフトケース

このカメラには2種類の専用ケースが用意されています。

- ・CF-49：AF35～80mm f/4～5.6Dレンズを装着したまま収納できます。
- ・CF-50：AF35～135mm f/3.5～4.5Sレンズを装着したまま収納できます。

ストラップ

付属のストラップ以外にも、各種のストラップが用意されています。

- ・AN-4B（黒色）、AN-4Y（黄色）：あみひも製のネックストラップ
- ・AN-6Y（黄色）、AN-6W（ワインカラー）：あみひも製のワイドストラップ

AFニッコールレンズ

交換レンズとして、14mmから600mmまでの広角、ズーム、望遠、マイクロレンズなど様々なAFニッコールレンズが用意されています。

フィルター

レンズ保護用としてスカイライトフィルター（L1BC）、特殊撮影用としてソフトフィルター（ソフト1・2）、円偏光フィルター（C-PL）など、数十種類のフィルターが用意されています。

スピードライト

当社製の別売リスピードライトを使用すると、内蔵スピードライトよりも、大きなガイドナンバーを持つため、広い範囲や遠くまで光を届かせることができます。なお、製品により、TTL-BL調光やその他のスピードライト撮影が可能です。詳細はP.64をご覧ください。

カメラの取り扱いと電池の取り扱いについて

■カメラの取り扱い



シンナーやベンジンなどの有機溶剤をカメラの清浄に使用しないこと

火災や健康障害の原因となります。
製品を破損します。

●カメラ本体をお手入れする際の注意

カメラ本体のお手入れは、ブローアードゴミヤホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。

●ミラーやレンズを手入れする際の注意

レンズやミラーにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブローアードゴミヤホコリを軽く吹き払う程度にしてください。

レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、軽く拭き取ってください。

●強いショックを与えないでください。

カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●シャッター幕に触れないでください。

シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブローアードなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。キズ、変形、破損などの原因となります。

●強い電波や磁気を発生する場所は避けてください。

テレビ塔のような強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しなくなることがありますので注意してください。

●風通しの良い場所に保管してください。

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。

・ナフタリンや樟腦の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●極端な温度変化は避けてください。

温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や、その逆となる所）にカメラを持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからご使用ください。

カメラの取り扱いと電池の取り扱いについて—つづき—

●保管する際は電池を取り出し、乾燥剤といっしょにしてください。

長期間カメラを使用しないときは、電池の液漏れなどからカメラを保護するために、カメラから電池を取り出して保管してください。

- ・保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。電池は高温、多湿となる場所を避けて保管してください。
- ・乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。
- ・カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1か月に1度を目安に電源を入れて数回シャッターをきってください（コンデンサーの劣化を防ぐため、スピードライトも発光させてください）。

電池の取り扱い



警告



放置禁止

電池は幼児の手の届かないところにおくこと

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

●3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本を使用してください。

電池は、3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本を使用してください。

- ・大切な撮影に際しては、早めに電池を交換するか、予備の電池を携行してください。

●電池を入れるときは、カメラの電源をOFFにしてください。

電池を入れるときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてから、 \oplus \ominus を間違いのないよう正しく入れてください。

- ・付属の電池は購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。
- ・電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●低温時には新しい電池を使用してください。

低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しなくなることがあります。

低温時に撮影する場合は、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。

- ・低温時は、常温時より巻き上げ速度や撮影可能本数も低下します。低温のために、一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

●電池を火の中に投入したり、ショートさせないでください。

電池を火の中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱、充電したりしないでください。

アフターサービスと保証について

- この製品についてのお問い合わせは
ご意見、ご質問は最寄りのニコンサービスセンター、サービスステーション等、
当社サービス機関へお寄せください。
 - 当社サービス機関につきましては、使用説明書裏面をご参照ください。
- 修理を依頼される場合は
ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。
 - ご購入店、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、
最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。
- 補修用性能部品について
このカメラの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年間を目安として
います。
 - 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
 - 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期
間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、また
は当社サービス機関へお問い合わせください。
 - 水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理
が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サー
ビス機関にお任せください。

製品の保証について

- ① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。
- ② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになってい
ます。
「ご愛用者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された
保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
- ③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から1年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないこと
になりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご
請求ください。
- ④ 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書
とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合
があります）。
- ⑤ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりは
お客様にご負担願います。
- ⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご
不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合
わせください。

故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）

■表示パネル、ファインダー内表示に警告表示が点灯または点滅した場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

こんなとき		原因	対処方法	参照 ページ
表示パネル	ファインダー内			
FEE (点滅)	FEE (点滅)	●レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	●レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.18
 (点灯)		●電池容量がわずかです。	●予備の電池を用意してください。	P.17
 (点滅)		●電池が消耗しています。	●電池を交換してください。	P.16
F-- (点滅) (Mモード時は点灯)	F-- (点滅) (Mモード時は点灯)	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	●CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）を使用してください（ただし、Mモードにセットすれば撮影できます）。	P.18 P.34
Errと  (点滅) E (点灯)	Err (点滅)	●フィルムが正しく送られていません。	●フィルムを取り出して入れ直してください。	P.21
 (点滅) E (点灯)		●DXマーク付フィルム以外のフィルムが入っています。	●DXマーク付フィルムに入れ換えてください。	P.21
 (点滅)		●フィルム巻き戻し完了後、フィルムを取り出さずにおくと、シャッターボタンを押すたびに点滅します。	●フィルムを取り出してください。	P.29
Errと  (点滅)		●電池容量が低下している場合や低温時はモーターが停止し、フィルム巻き戻しが行われません。	●電源スイッチをいったんOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにして再び巻き戻しを行ってください。	P.16 P.37

こんなとき		原因	対処方法	参照 ページ
表示パネル	ファインダー内			
	● (点滅)	●AF (オートフォーカス) でピント合わせができません。	●M (マニュアル) でピント合わせを行ってください。	P.39
H i (点灯)	H i (点灯)	●被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	●Sモード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ●Aモード時はより大きい数値の絞り値にしてください。 ●M以外の露出モードでは、ND (光量調節用) フィルターを使用してください。	P.43 P.44 P41-44 P.47
Lo (点灯)	Lo (点灯)	●被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	●Sモード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ●Aモード時はより小さい数値の絞り値にしてください。 ●M以外の露出モードではスピードライトを使用してください。	P.43 P.44 P.30 P41-44 P.47
-- (点滅)	-- (点滅)	●Sモード時にシャッタースピードが長時間露出にセットされています。	●シャッタースピードを長時間露出以外にセットするか、Mモードにセットしてください。	P.43 P.45
	⚡ (点滅)	●被写体が暗いのでスピードライトの使用をすすめています。	●内蔵スピードライトを使用してください。	P.30
	⚡ (点滅)	●発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	●撮影距離、絞り値、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.60
Errと ⚡ (点滅)	Errと ⚡ (点滅)	●A、Mモード以外の時に別売りスピードライトのモードセレクターが、  にセットされていません。	●モードセレクターを  にセットするか、露出モードをAまたはMモードにセットしてください。	P.65

電子制御カメラの特性について

きわめて稀なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。

仕様

形式	モーター、スピードライト内蔵35mm一眼レフレックス電子制御式フォーカルプレーンシャッターオートフォーカスカメラ
露出制御	☺：オートモード P：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能） S：シャッター優先オート A：絞り優先オート M：マニュアル イメージプログラム（☼：ポートレートモード、■：風景モード、☼：クローズアップモード、✱：スポーツモード、☾：夜景モード）
画面サイズ	24X36mm（パノラマ撮影時：13X36mm）
レンズマウント	ニコンFマウント
交換レンズ	<ul style="list-style-type: none"> ・DタイプAFニッコール：フル機能使用可 ・PCマイクロニッコール85mmF2.8D：中央部重点測光、露出モードMで使用可（あおり操作時を除く） ・AF-S、AF-Iニッコール：オートフォーカスを除く機能使用可 ・Dタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）：3D-6分割マルチパターン測光を除く機能使用可 ・Ai-Pニッコール：3D-6分割マルチパターン測光およびオートフォーカスを除く機能使用可 ・IXニッコール：使用不可 ・CPU内蔵ニッコール以外（Ai-S/Ai/シリーズE/改造Ai）のレンズ：露出モードはMモードで可（露出計は使用不可）、f/5.6以上明るいレンズでフォーカスイド可
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用
ファインダー スクリーン	クリアマツスクリーンⅡ（フォーカスフレーム付、パノラマ撮影範囲フレーム付）標準装備
ファインダー視野率	約90%（対実画面）
ファインダー倍率	約0.69～0.74倍（50mmレンズ使用、∞時）
視度調節	-1.5～+1.0m ⁻¹
ファインダー内表示	ピント表示（合焦、合焦不能警告）・FEE警告・Err警告・F-警告・露出値（シャッタースピード、絞り）・露出警告・露出インジケータ・露出補正マーク・フォーカスフレーム・パノラマ撮影範囲フレーム・中央部重点測光エリア・レディライト（充電完了、

ファインダー内表示	フル発光時の警告)・スピードライト推奨マーク・パノラマ表示
オートフォーカス	<ul style="list-style-type: none"> ・ TTL 位相検出方式、AF補助光付 ・ シャッターボタンの半押しを続けると作動する ・ 検出範囲：EV-1～EV19 (ISO100、常温)
レンズサーボ	<p>AF : オートAFサーボ：シングルAFサーボかコンティニュアスAFサーボのどちらかを被写体の動きと動きの方向によってカメラが自動的に選択する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シングルAFサーボ (ピントが合うとフォーカスロックする) ・ コンティニュアスAFサーボ (被写体の動きに合わせ、ピントを追い続ける) <p>M : マニュアル</p>
フォーカスロック	シングルAFサーボ (S) 時は、シャッターボタンの半押し操作で合焦したとき、シャッターボタンの半押し中は可能
測光方式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3D-6分割マルチパターン測光：D タイプAFニッコール装着時 ・ 6分割マルチパターン測光：D タイプ以外のAFニッコール (F3AF用、IXニッコールを除く) / Ai-Pニッコール装着時 ・ 中央部重点測光：露出モードがM時およびAEロック時に自動的に切り換え
測光範囲	ISO100、50mm f/1.4レンズ使用時、EV1～20
フィルム感度設定	DX方式による自動設定、フィルム感度連動範囲：ISO25～5000
半押しタイマー	電源スイッチON後、無操作状態で5秒、または電源スイッチON状態で、シャッターボタンの半押し後シャッターボタンから指を離してから5秒。リリース直後は2秒
露出補正	補正範囲：1/2段ステップで±3段の補正可能 (P、S、A、M時)
AEロック	AEロックボタンによるBVメモリー方式 (中央部重点測光)
シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 、P、A、、、、、、 時：30秒～1/2000秒 (カメラが自動設定) ・ S、M モード時：タイム.30 秒～1/2000秒 (長時間露出 (タイム) はMモード時のみ)
セルフタイマー	電子制御式、作動時間10秒、途中解除可能

仕様—つづき—

シンクロ接点	<ul style="list-style-type: none"> ・ X接点のみ（半導体方式）、1/125秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトに同調 ・ スピードライト使用時に、1/2000秒～1/180秒に設定してあるときは1/125秒に自動切り換え
内蔵スピードライト	<p>押しボタン操作による手動ポップアップ方式</p> <p>ガイドナンバー15 (ISO100・m、20°C)</p> <p>照射角28mmレンズの画角をカバー</p> <p>フィルム感度連動範囲ISO25～800 (別売りスピードライト使用時も同様)</p>
スピードライトの調光方式	<p>TTL自動調光センサー一体型ICによる以下の調光制御</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TTL-BL調光：内蔵スピードライトおよび別売りスピードライトとCPU内蔵ニッコールの組み合わせによりTTL-BL調光可能（露出モードM時は中央部重点測光による簡易TTL-BL調光）、 ・ TTL調光：CPU内蔵ニッコール以外のレンズとの組み合わせ時は、中央部重点測光によるTTL調光
シンクロモード	ノーマルシンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、スローシンクロモードの選択可能。
スピードライト推奨マーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピードライト撮影推奨時（低輝度時）：レディライト点滅
レディライト	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピードライト充電完了時：点灯（充電時間、最短で約4秒） ・ フル発光による露出警告時：点滅（リリース後3秒間）
アクセサリシュー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホットシュー（フラッシュ接点、TTL自動調光用接点、レディライト用接点付） ・ セーフティロック機構付（ロックピン付スピードライト装着時はロック穴に自動挿入にて外れを防止）
フィルム装てん	順巻き式イージーローディング（フィルムセット完了後、裏ぶた閉じることによりフィルムカウンター“1”まで自動空送り）
フィルム巻き上げ	内蔵モーターによる自動巻き上げ、1コマ巻き上げ（フィルム終端で自動巻き戻し）、Mモード時のみ連続巻き上げ可能、巻き上げ速度：約1コマ/秒
フィルムカウンター	液晶によるデジタル表示、順算式、巻き戻し時は逆算による連動
フィルム巻き戻し	フィルム終端で自動巻き戻し開始、36EX約17秒、24EX約14秒

撮影可能な フィルム本数	フォーカスモードAF、1/125秒以上の高速シャッタースピード、AFニッコール35~80mm f/4~5.6Dを装着し1コマ毎に無限から至近間を1往復させて使用した場合。[]内はスピードライトを50%発光させた場合 36枚撮り：常温(20℃)時、約65本[16本]、低温(-10℃)時、約38本[10本] 24枚撮り：常温(20℃)時、約85本[21本]、低温(-10℃)時、約50本[13本]
表示パネル	液晶表示により以下の内容を表示 露出値(シャッタースピード、絞り値)・シンクロモード・フィルム感度・露出補正マーク・露出補正量・フィルムカウンター・FEE警告・Err警告・F・警告・フィルム在中マーク・セルフタイマーマーク・電池容量チェック・プログラムシフトマーク
クォーツデイト	<ul style="list-style-type: none"> 液晶表示によるクォーツデジタルウォッチ内蔵(時計精度月差±90秒以内) フィルム感度連動範囲：ISO32~3200(DX方式による自動設定) データ(年月日・日時分・月日年・日月年・写し込み解除)、月末、うるう年自動修正(2019年12月31日まで対応) 使用電池：3Vコイン型リチウム電池(CR2025タイプ)1個使用、電池寿命3年、ただしデータ写し込み回数・作動条件等により異なる
裏ふた	蝶番式、フィルム確認窓付
使用電池	リチウム電池2本(CR123Aタイプ)使用
電池容量チェック	電源スイッチON状態のとき、表示パネルに電池容量のチェック表示を以下の3段階で表示。 <ul style="list-style-type: none"> 点灯：電池容量充分 点灯：電池容量わずか(予備の電池を準備) 点滅：電池交換(表示消灯時も電池交換)
パノラマ対応	外部切り換え式によるパノラマサイズと標準サイズ
三脚ネジ穴	1/4(JIS規格)
大きさ	約148.5(幅)X96(高さ)X70(奥行き)mm(デイトパノラマボディ)
質量(重さ)	約590g(電池を除く・デイトパノラマボディ)

*仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温(20℃)、新品電池使用時のものです。

仕様、外観の一部を、改善のため予告なしに変更することがあります。

英数	3D-6分割マルチパターン測光	P.32・35・50
	AEロック	P.51
	AF (オートフォーカス)	P.22・35・38
	AF補助光	P.27・38・66
	AUTO (オート)	P.24・25・41
	CPU内蔵ニッコール	P.34・60・64
	DXマーク付きフィルム	P.21・36
	DタイプAFニッコールレンズ	P.32・34・35
	M (マニュアルフォーカス)	P.35・39
	TTL調光	P.60
TTL-BL調光	P.30・60・64	
あ	赤目軽減モード	P.61・66
	赤目軽減スローシンクロモード	P.61・66
	イメージプログラム	P.47・48・49
	インスタントリセット	P.59
	オートAFサーボ	P.6・38・66
か	ガイドナンバー	P.31・60
	開放絞り	P.44・45・48
	距離情報	P.32・50
	クローズアップモード	P.25・48・66
	コンティニューアスAFサーボ	P.38・49・66
さ	最小絞り	P.10・18
	視度調節機能	P.58
	絞り優先オート	P.25・44・66
	シャッター優先オート	P.25・43・66
	シングルAFサーボ	P.38
	シンクロモード	P.60・61・62
	スポーツモード	P.25・49・66
	スローシンクロモード	P.60・61・66
	セルフタイマー	P.57
測光モード	P.32・50・66	

た	中央部重点測光	P.32・35・50
	長時間露出 [タイム]	P.45・46
	調光範囲	P.31・44・60
	同調シャッタースピード	P.62・65
な	内蔵スピードライト	P.30・60・62
	ノーマルシンクロモード	P.30・62・66
は	パノラマ	P.53・54
	被写界深度	P.32・44・47
	風景モード	P.25・48・66
	フォーカスエイド	P.35・39
	フォーカスモード	P.22・38・39
	フォーカスロック	P.22・27・40
	プログラムシフト	P.42・66
	ポートレートモード	P.25・48・66
ま	マニュアル (露出)	P.35・45・66
	マルチプログラムオート	P.25・42・66
	マルチパターン測光	P.32・50・66
や	夜景モード	P.25・49・66
ら	露出補正	P.52・66
	露出モード	P.25・35・41・46・66

<お客様相談室>

ニコン製品のお問い合わせ専用窓口です。

140-0015 東京都品川区西大井1-4-25（コア・スターレ西大井第一ビル2階）

☎ (03)3775-2266

FAX(03)3775-7201

営業日 土・日、祝日を除く毎日です

営業時間 9:00～17:45

*このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

本 社 100-8331 東京都千代田区丸の内3-2-3・富士ビル

K0K2000801(K889)10